

創立30周年記念誌

1988年 10月

日本分析化学会中部支部

日本分析化学会中部支部

創立30周年記念に寄せて

富山大学理学部 後藤 克己

日本分析化学会中部支部が昭和33年に創立されて今年で30周年を迎えることになりました。この記念すべき年に支部長を仰せつかったことを大変嬉しく思っております。

私が中部支部に参りましたのは昭和48年で、支部発足のころの事情にはうといのですが、私が支部の一員に加えていただいてからでも、中部支部で行なわれる学会は回を重ねるに従ってますます盛会になっております。また中部支部会員の中からすぐれた研究が発表され、多くの学会賞授賞者を輩出するなど、中部支部発展はまことに目覚ましく、ご同慶のいたりです。

支部がこのように発展して参りましたのも歴代の支部長、役員、そして支部の会員の皆様の御協力のたまもので、ここに厚く御礼申し上げる次第であります。

分析化学は、物質を扱うあらゆる分野の基礎となるものであります。しかし、物質の種類と量に関係のある性質なら、どんな性質でも分析に応用できますし、また、多くの知識を総合して分析機器が出来上がるわけです。従って、分析化学は基礎科学であると同時に総合科学の一面をも備えていると言えるでしょう。そんなわけで、分析化学を発展させるためにはいろいろな専門分野の方々の協力が必要です。中部支部におきましても、いろいろな分野の方々の応援を得て分析化学をますます発展させ、来たるべき40周年、50周年を皆様と共に盛大にお祝いしたいものです。

30周年記念事業につきましては、前年度支部長の信州大学伊豆津公佑先生のもとで、名古屋大学工学部の河口広司先生を委員長として実行委員会が設けられ、記念講演会と、ここにお届けするような記念誌の発行が企画されました。ご多忙中を何回も集まって計画を練って下さった委員の皆様、お忙しいところを原稿をお寄せいただいた諸先生に厚く御礼申します。

終わりにになりましたが、支部会員の皆様のますますの御発展をお祈りし、御挨拶いたします。

中部支部創立30周年記念事業実行委員会

委員長	河口 広司	(名古屋大学工学部)
委員	石塚 紀夫	(名古屋工業技術試験所)
	酒井 忠雄	(朝日大学化学)
	柘植 新	(名古屋大学工学部)
	舟橋 重信	(名古屋大学理学部)
	森 定雄	(三重大学工学部)
	和田 弘子	(名古屋工業大学)

中部支部創立30周年記念講演会

日時 1988年10月7日（金） 15：00～17：30

場所 愛知厚生年金会館
（名古屋市千種区池下2-63）

プログラム

司会 名古屋大学工学部 柘植 新

1. 開会の辞

2. 支部長挨拶

富山大学理学部 後藤 克己

3. 記念講演

[1] トレースアナリシスにおける予備濃縮とキャラクタリゼーション

金沢大学理学部 寺田喜久雄

[2] クロマトグラフ法の最近の進歩

名古屋大学工学部 石井 大道

[3] メタロポルフィリン生成反応の機構とそれを用いる速度論的分析法

名古屋大学理学部 田中 元治

4. 閉会の辞

懇親会 18：00～20：00

創立30周年記念テレホンカードについて

このカードのデザイン「ニジ」は、市販の多数のモデルデザインの中から選びました。虹はいうまでもなく分光スペクトルそのもので、分析化学の代表的な手法であるスペクトロメトリーを表わしています。しかしもっと広く、各種の化学分離法や化学種の同定法など、分析化学の基本概念を象徴的に表現したものと考えて下されれば幸いです。ひるがえって、日本分析化学会は「理・工・薬・医・農・歯・業界」という広い分野の会員からなる学際的な集まりであり、また中部支部は、「愛知・岐阜・三重・静岡・長野・富山・石川・福井」の8県からなっていて、それぞれ、虹の7色、あるいは地の白色を含めた8色によって象徴されているとも言えるのです。

歴代支部長

(括弧内は支部長当時の所属)

1958年度



故 菅原 健 先生
(名古屋大学理学部)

1959年度



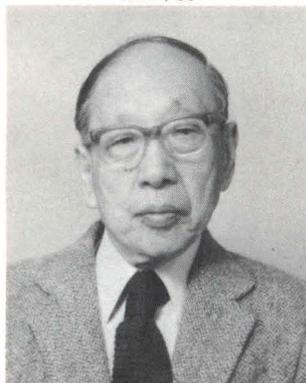
故 内藤多喜夫 先生
(名古屋市立大学薬学部)

1960年度



故 道野 鶴松 先生
(名古屋工業大学)

1961年度



山崎 一雄 先生
(名古屋大学理学部)

1962年度と1967年度



故 武内 次夫 先生
(名古屋大学工学部)

1963年度



木羽 敏泰 先生
(金沢大学理学部)

1964年度



故 木下弥兵衛 先生
(名古屋市立大学薬学部)

1965年度



小玉 数信 先生
(名古屋市工業研究所)

1966年度



故 森田 清 先生
(名古屋工業技術試験所)

1968年度



小田 伸彬 先生
(日本曹達株)

1969年度



田中 元治 先生
(名古屋大学理学部)

1970年度



桜場 周吉 先生
(静岡大学工学部)

1971年度



水池 敦 先生
(名古屋大学工学部)

1972年度



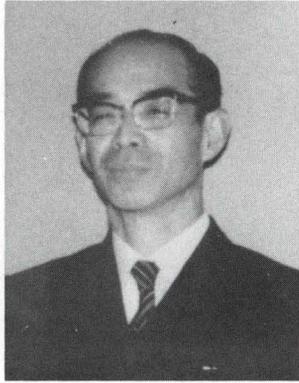
石井 大道 先生
(名古屋大学工学部)

1973年度



上田 俊三 先生
(金沢大学工学部)

1974年度



故 入谷 信彦 先生
(静岡薬科大学)

1975年度



喜谷 喜徳 先生
(名古屋市立大学薬学部)

1976年度



山寺 秀雄 先生
(名古屋大学理学部)

1977年度



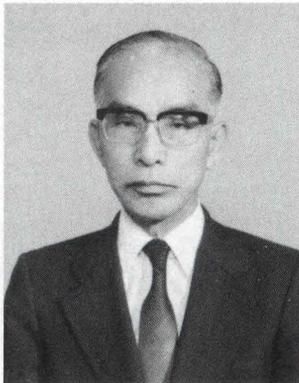
神原 富尚 先生
(静岡大学理学部)

1978年度



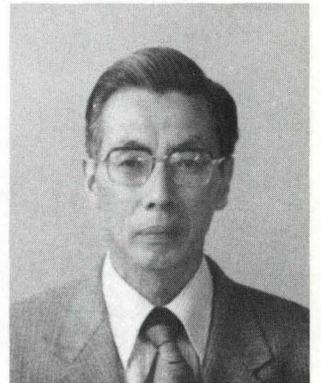
宮崎 元一 先生
(金沢大学薬学部)

1979年度



鈴木 正巳 先生
(三重大学工学部)

1980年度



柴田 正三 先生
(名古屋工業技術試験所)

1981年度



中川 元吉 先生
(名古屋工業大学)

1982年度



寺田喜久雄 先生
(金沢大学理学部)

1983年度



飯田 忠三 先生
(名古屋工業大学)

1984年度



村田 旭 先生
(静岡大学工学部)

1985年度



佐々木慎一 先生
(豊橋技術科学大学)

1986年度



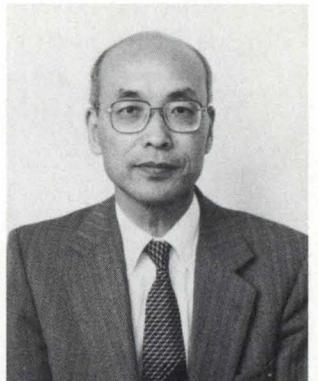
山本 善一 先生
(金沢大学工学部)

1987年度



伊豆津公佑 先生
(信州大学理学部)

1988年度



後藤 克己 先生
(富山大学理学部)

日本分析化学会中部支部創立30周年記念誌

目 次

〔巻頭言〕日本分析化学会中部支部創立30周年記念誌に寄せて	支部長 後藤 克己
写 真 歴代支部長	
1. 支部30年を振り返って	
1.1 中部支部 —神代と天の岩戸と—	田中 元治 (1)
1.2 中部支部発足以前の頃のこと	石井 大道 (2)
1.3 中部支部発足以前のこと	中川 元吉 (2)
1.4 中部支部と歩んだ30年	寺田喜久雄 (4)
2. 中部支部30年史	和田 弘子 (5)
3. 学会賞等授賞者一覧	(33)
4. 創立30周年記念誌に寄せて	
4.1 20周年を憶う	神原 富尚 (35)
4.2 試薬	神戸 正雄 (35)
4.3 Computer Chemistry とともに20年	佐々木慎一 (36)
4.4 分析化学の展開と悩み	根津 弘幸 (36)
4.5 分析化学中部夏期セミナー所感	板谷 芳京 (37)
4.6 30周年を迎えて	内田 哲男 (37)
4.7 分析化学中部夏期セミナーについて	山田 碩道 (38)
4.8 能登から浜名湖へ	山田 真吉 (38)
4.9 中部支部の更なる発展へ	野水 勉 (39)
5. 中部支部所属会員数の推移	(41)
付記	河口 広司 (42)

1 支部30年を振り返って

1.1 中部支部——神代と天の岩戸と——

名古屋大学理学部 田中 元治

まず神代の話から始めましょう。昭和20年代、空襲の焼跡の空地があちこちに目につきました。名古屋大学理学部、名古屋工業大学、名古屋市立大学薬学部は現在のキャンパスの中に木造の建物がありましたが、名古屋大学工学部は大部分が熱田に近い高蔵にありました。その当時の先生方は菅原 健、山崎一雄（名大理）、平野四蔵（名大工）、道野鶴松（名工大）、内藤多喜夫、木下弥兵衛（名市大薬）の諸教授のほか、小玉数信教授が六番町の名古屋市工業研究所におられました。昭和20年代の後半から中部支部設立の気運が高まり、その準備の資金作りのために分析化学講習会が何回か開催されました。これはその後も中部支部の名のもとに続けて開催され、支部の乏しい財政を補なう役割を果たしましたが、その当時の講習会は主催者のはっきりしない妙なものでありました。当時20代だった私は毎回お手伝いを致しましたが、出しものは決まって「水の分析」でありました。答えられない質問に冷汗をかきました、一生懸命でした。それでも久し振りに会った人が、私を水の分析の権威（？）と思い込んでおられるのを知り、全く汗顔の至りです。

昭和33年は天の岩戸の年です。中区役所で中部支部設立記念の分析化学会年会が開催されました。そのときに今は故人の Fritz Feigl 教授夫妻が来名され、有機の点滴分析の講演をされました。その講演のための実験助手をされたのが当時東大薬の田村喜蔵教授でありました。その講演の前日、講演の図表の原稿を渡され、翌日までに用意をするようにと云われました。当時は OHP の複写のような便利なものはありませんし、スライドもそう簡単にはいきません。

夜もふけてから白の全紙に何枚も書きました。やっと書き終えたときには雀が鳴き、夜が白じらと明けかけておりました。このピラを使って無事に講演が終って、この Feigl 教授夫妻を招待したところが八事の八勝館の“天皇の間”でありました。美しい庭園を眺めながら、つぎつぎと運ばれるお膳の上品な料理をおいしく頂き、私は末席で感激しておりました。随分高かったろうなあ。食後デザートになったとき Feigl 教授いわく「日本人はいろいろの種類のを、ほんの少しずつ食べるようだが、われわれは気に入ったものを一種類たくさん食べたいと思う」と。

中部支部の初代の支部長は菅原教授でした。幹事会のメンバーは先にあげた先生方に、北陸から木羽敏泰教授、岐阜から飯沼弘司教授、静岡から桜場周吉教授が加わっておられました。幹事会はいつも名古屋ホテル（納屋橋近くの老朽ホテルで、その後取りこわされた）でありました。支部設立後しばらくして日本分析化学会の学会賞が創設されました。当時は支部内に学会賞推薦委員会は設けられず、候補者選びは幹事会の重要な仕事の一つでありました。熱心な議論があって、毎年中部支部所属以外の人も加えて全国的視野に立って推薦が行われたのが印象に残っております。そのためか当支部からの推薦は採択率が高く、第1回（昭和38年度）の小田仲彬博士と木羽教授をはじめ第2回の平野教授、第3回の武内次夫教授と支部関係者がつづいて受賞されたのに加えて、他支部所属で中部支部推薦の方がほとんど毎年受賞されたことは喜ばしいことでありました。

支部の事務局ははじめ10年ばかり名古屋大学理学部の分析化学研究室におかれ、当時工学部の講師の故齊藤 謙博士と私が万年幹事を務め

ておりました。その後支部の発展と共に事務局は支部長持ちまわりとなり、やがて現在の科学館内に収まって今日に至っております。

この小文所載の何人かの先生方は今は亡く、ただ御冥福を祈るばかりです。またお元気の先生方の御健康と御活躍を、また中部支部の一層の発展を祈って擲筆します。

1.2 中部支部発足以前の頃のこと

名古屋大学工学部 石井 大道

昭和20年代は敗戦の混乱から立ち直り、国民が苦しい生活でありながらも工業生産を次第に上げて、今日の繁栄への道の基礎を築いた時代であった。私は昭和22年4月旧制名古屋大学工学部に入学し、分析化学の手ほどきを石丸三郎教授から受けてこの分野に興味を覚え、24年4月には先生の工業分析化学講座の卒論生として入門し、直接教えることになった。その当時、木羽敏泰先生が助教授として、また斉藤謙先生、鈴木正巳先生が助手として在任しておられた。私は石丸先生から「酸化還元分析における過塩素酸の影響」というテーマをいただき、液状アマルガムを用いて過塩素酸酸性溶液中で鉄、チタン、クロム、バナジン、モリブデンなどの各イオンを還元し酸化滴定をする方法について実験をした。研究室には大学院特別研究生として、向山朝之(山梨大教授)、吉森孝良(東京理科大教授)の両氏も在籍しておられ、これらの良き先生や先輩の指導や助言を得て卒論の一年間を楽しく過ごすことができた。昭和24年は新制度の大学が発足した年であり、木羽先生は金沢大学理学部教授にご栄転になり、斉藤謙先生が講師に昇任された。そのおかげで、私は後任として卒業と同時に助手に採用していただいた次第であるが、その年の6月石丸先生が急逝された。後任として翌年の初め平野四蔵先生が山梨大学から着任された。

平野先生は鉄鋼迅速分析法の専門家であり、学術振興会第19委員会を中心として活躍された。迅速分析法と言っても化学分析が主であり、現場の機器分析として吸光光度法やポーラログ

ラフ法、発光分光分析などが採用されはじめた時代であった。(昭和27年に日本分析化学会が発足している。)平野先生はこの吸光光度法やポーラログラフ法などの新しい手法を工場の技術者などに普及させるため、名古屋において講習会の開催を提案された。

当時、名古屋地区には分析化学関係に立派な先生方が多数おられ、名古屋大学理学部には菅原先生、山崎先生、小穴先生、小山先生、田中先生らが、名古屋市立大学薬学部には内藤先生、木下先生、今枝先生らが、名古屋工業大学には道野先生、守永先生、中川先生ら、名古屋工業技術試験所には松前先生ら、名古屋市工業研究所には小玉先生らが活躍しておられた。平野先生はこれら多くの先生方と相談され、先生方のご協力を得て名古屋工業大学の実験室などを会場として分析化学講習会が開催された。平間理化の光電光度計を社長さんが担いで夜行列車で会場に運ばれたことや、講習会が終ってからの懇親会が楽しかったことなど、思い出深いものがある。

名古屋地区では、分析化学講習会がこのように早くから実施されており、昭和33年の中部支部発足の下地になったと考えられる。しかし、当初の支部としては予算的に厳しい状態であり、その活動や運営には当時の支部役員は大変ご苦労された。多くの先輩の献身的な努力が、今日の中部支部の隆盛の源となっていると思われる。すでにこれら当初からお世話になった先生方の中には故人になられた方も多い。中部支部の30周年を迎え、これらの方をはじめ、支部の活動にご協力いただいている会員の皆様に深く感謝する次第である。

1.3 中部支部発足以前の頃のこと

名古屋工業大学 中川 元吉

支部30年の歩みについては、別に年表としてまとめられるので、ここでは支部発足の準備段階での活動について書いておきたい。

昭和29年頃より、当時の名古屋大学理学部菅原 健、山崎一雄、工学部平野四蔵、名古屋

工業大学 道野鶴松、名古屋市立大学薬学部内藤多喜夫らの諸先生の間で中部支部創設が話題となり、当面その準備として、分析化学の講習会を開催することになった。

当時は、戦後海外より導入された分光光度計、pHメータ、自記ポーラログラフ、ガスクロマトグラフなどの新しい分析機器が漸く国産化されつつあり、またイオン交換樹脂、キレート滴定、溶媒抽出などの新しい分析法が広く採り入れられようとしていた時代であったので、これらの新しい分析法の講習会が各地で活発に開かれていた。

第1回の講習会は昭和29年7月29日より31日まで、名古屋工業大学で行なわれた。何分支部発足以前のことでもあるので、日本分析化学会、日本化学会、日本農芸化学会、日本薬学会の共催という形で、名称も中部地方第1回分析化学講習会として行われた。主題は光電光度法とポーラログラフ法で、第1日にはつぎの8件の講義があった。

- 8：30～9：30 分光光度法の概要
名大理 山崎 一雄
- 9：40～10：20 蛍光分析について
名大医 八木 国夫
- 10：30～11：10 炎光分光光度法について
名大理 小穴 進也
- 11：20～12：00 光電光度法による鉄鋼分析
名大工 平野 四蔵
- 1：00～1：40 分光光度法を主とした水及び珪酸塩の分析
名大理 菅原 健
- 1：50～2：30 光電光度法の薬学への応用
名市大薬 内藤多喜夫
- 2：40～3：40 ポーラログラフ法の無機分析への応用
名工大 道野 鶴松
守永 健一
- 3：50～4：30 ポーラログラフ法の有機分析への応用
岐阜県衛生試験所
松本 和夫

現在の講習会と比べれば、実に盛り沢山で、その意気込みのすさまじさが感じられる。

第2日と3日目は実習が行われたわけであるが、つぎの5課題の中から一つを選んで1日実習することになっていたが、希望者には2課題を2日にわたって実習することもできた。

- イ) 光電光度法による鉄鋼分析
- ロ) 比色法を主とした水及び珪酸塩の迅速分析
- ハ) 光電光度法による薬品分析
- ニ) 蛍光測定法による生化学分析
- ホ) ポーラログラフ分析

各実習課題の内容もきわめて豊富で、例えばロ)の水及び珪酸塩の分析には、水中のナトリウム、カリウム(炎光法)、カルシウム、マグネシウム、鉄、マンガン、アンモニア、塩素イオン、硫酸根、シリカ、燐酸根、亜硝酸根、硝酸根、全炭酸、ガス(酸素、窒素)及び珪酸塩中の珪酸、鉄、アルミニウム、カルシウム、マグネシウムの定量が含まれていた。

当時の名工大の学生実験室は戦災で焼け残ったコンクリートの実験室で、電源、水道、ガスなどの設備もきわめて貧弱であった。80人程度の実験室で100人以上もが実験するわけで、蒸し風呂のような暑さであった。実習の準備がまた大変で、各大学の研究室から、ガラス器具、試薬類、蒸留水までも持ち寄って、実習前1週間程準備に忙殺された。

講習料は講義及び実習で会員1500円(会員外1600円)であったが、当時の学卒者の初任給は6～7000円であったから、今の3～4万円程度であろうか?それでも参加者は延べ312名に達した。

第2回は昭和30年8月25、26日の両日名古屋大学工学部で、イオン交換樹脂法、汙紙電気泳動、定電位電解法の講習会が開かれている(参加者150名)。

また昭和31年5月12、13日には金沢大学で北陸地区講習会として、基礎ポーラログラフ講習会が開催されている(参加者117名)。

これらの活動とその収益をもとに、支部発足

の準備が進められ、昭和33年に支部が発足したわけである。

1.4 中部支部と歩んだ30年

金沢大学理学部 寺田喜久雄

中部支部は、筆者が大学院を修了し、名古屋大学理学部助手として研究者の第一歩を踏み出した年に創設された。以来ずっと中部支部のお世話になってきた筆者にとって、支部に対する愛着はひとしお深いものがある。支部創設と時を同じくして開かれた第7年会では、名古屋市中区役所が会場に選ばれて、筆者もお手伝いをしたが、暗幕の設備がないため、窓の寸法に合わせて切りとった黒い布を一つ一つの窓にはりつけねばならず、本拠地を離れての会場設営に大変苦勞をした。まして、実行委員であられた諸先生方は、人知れぬ御苦勞をなされたことと思う。

その後金沢大学へ転任して3年目の1963年に第12年会が金沢大学で開催されることになった。今とは違って、学会本部及び支部からの年会費と会員の参加費だけでは、年会の運営は到底不可能であったので、石橋雅義実行委員長(当時金沢大学長)名で、主として北陸三県の企業約100社に賛助会費をお願いし、木羽敏泰、上田俊三、阪上正信、小田仲彬の諸先生が、各社を訪ね歩いて資金を集められるという知られざる苦勞があった。これらの資金と展示参加費とを合わせて、どうやらつつがなく年会を終えることができた喜びは、会計を担当した筆者にとって今も忘れることができない。その後、討論会及び年会は、原則として本部及び支部の年会費と参加登録費とで運営できるようになったので、第36回分析化学討論会(1975年)と第27年会(1978年)を金沢で開催したときは、資金の調達や要旨集の校正・印刷などの煩わしさから解放されて、ずっと楽であった。

1982年度には支部長をつとめさせて頂いたが、中川元吉前支部長が、「最近、メーカー主催の分析機器講習会が各地で行われるようになり、支部で講習会を行うのが困難になった。こ

れに代わる支部活動の一環として、若手研究者を主体とするセミナーをやったらどうか」と常々提案されていたので早速実行に移すことにした。話は昔に戻るが、支部発足後まもなく、支部活動を円滑に行うのを目的として設けられた北陸部会は、その後交通が便利になったこともあって1972年に解消された。しかし支部の御好意で、引きつづき北陸地区役員連絡会として運営費を計上して頂き今日に至っている。この制度は、東海地区から離れた位置にある北陸地区で、各種の支部活動を行うのに大変有効であり、セミナーの件も早速この役員連絡会にはかった。いくつかの候補地のうちから、第1回は能登で開催することに意見が一致した。支部の了承も得られたので、板谷芳京、宮崎元一、山本善一の諸先生と相談した結果、第1回分析化学能登夏期セミナーとして、8月末に和倉通信保養所「過雁荘」で開くことにした。「分析化学に関連する研究者、特に若手研究者の交流・親睦を通じて、各自の視野の拡大と充実を図り、以後の研究の発展に資する」のが目的である。初めての試みであったが、東海、北陸地区役員の方々のお骨折りで、特別講演2件、話題提供6件、メーカーによる新製品紹介5件が、40名余りの参加者を集めて行われ、年会などでは見られない活発な討論が交わされた。夜は懇親会や魚釣りに興じ当初の目的が十分に果されたとと思っている。第6回は乗鞍高原と続き、参加者数も80名を超えるほどになった。第3回からは、東海地区対北陸信州地区ソフトボール大会も行われ、支部会員の交流と親睦に大いにその実を挙げているのは嬉しいことに思う。このような会員相互の交流が大きな原動力となって、中部支部が益々発展することを心からお祈りするものである。

2 中部支部30年史

<p>1958年度 (昭33)</p>	<p>(支部長) 菅原 健 (副支部長) 大橋九万雄、木羽敏泰、武内次夫 (幹事) 青木 稔、浅田幸作、伊東保二、飯沼弘司、入谷信彦、上田俊三、大井信一、大野武雄、大橋 茂、金井千春、北野 康、木下弥兵衛、小玉数信、小玉洪平、小林治男、齐藤 謙、坂本重一、桜井武平、塩川孝信、芝崎陸奥夫、下方鉦蔵、曾根興三、田中元治、田辺伊佐男、田村悌一、高井康雄、徳岡松雄、鳥飼兵衛、中川元吉、松前鼎一、松本和夫、村瀬武雄、八木国夫、山本健磨</p> <p>10月27日 中部支部発会式(中区役所ホール)、参加者200名</p> <p>10月27～29日 分析化学会第7年会(中区役所、医師会館、実行委員長 菅原 健)</p> <p>研究発表：139件</p> <p>特別講演：The Use of Pyrolytic and Pyrohydrolytic Cleavage in Organic Spot Test (F. Feigl)</p> <p>見学会：(A) 日本陶器(株)、市内見学 (B) 東亜合成(株)、名古屋港</p>
<p>1959年度 (昭34)</p>	<p>[北陸部会設置]</p> <p>(支部長) 内藤多喜夫 (副支部長) 大橋九万雄、木羽敏泰、武内次夫 (幹事) 青木 稔、浅田幸作、伊東保二、飯沼弘司、入谷信彦、上田俊三、大井信一、大野武男、大橋 茂、垣花秀武、金井千春、北野 康、木下弥兵衛、小玉数信、小玉洪平、小林治男、齐藤 謙、坂本重一、桜井武平、塩川孝信、芝崎陸奥夫、下方鉦蔵、曾根興三、田中元治、田辺伊佐男、田村悌一、高井康雄、徳岡松雄、鳥飼兵衛、中川元吉、松前鼎一、松本和夫、村瀬武男、八木国夫、山本健磨</p> <p>6月10日 講演会(名古屋市工業研究所) 講演：3件</p> <p>6月25～27日 第1回講習会(富山大学工学部、富山県工業試験場) 講義：光電光度法の概要(大井信一) キレート滴定法(上野景平) ガスクロマトグラフィー概論(武内次夫) 実習：光電光度法、キレート滴定、ガスクロマトグラフィー</p> <p>11月5日 東海地区講演会(名古屋工業技術試験所) 講演：キレート化合物の研究(曾根興三) 分光光度計による発光分析(佐藤 繁)</p> <p>11月26日 講演会(名古屋工業技術試験所) 講演：2件</p>

	<p>1月28日 講演会（三見社ホール） 講演：汚水処理の法規並びにその実態について（久留義夫） 最近の汚水問題（菅原 健）</p>
1960年度 (昭35)	<p>(支部長) 道野鶴松 (副支部長) 小田仲彬、木下弥兵衛、武内次夫 (常任幹事) 飯沼弘司、入谷信彦、大井信一、小沢昭弥、小玉数信、齊藤 謙、田中元治、 中川元吉、松前鼎一</p> <p>4月20日 講演会（中区役所） 講演：最近の有機試薬について（山本勇麓） 最近の電気分析法について（藤永太一郎） 最近の鉄鋼微量元素の分析について（吉野義則）</p> <p>8月11日 講演会（名古屋市工業研究所） 講演：2件</p> <p>8月25～27日 第2回講習会（名古屋大学工学部） 講義：ガスクロマトグラフ法概論（武内次夫） 溶出成分のスペクトル測定（高山雄二） 赤外スペクトル概論（木村雅男） 吸収曲線の解説（平田義正） 実習：ガスクロマトグラフ法、赤外スペクトル</p> <p>9月17日 講演会（金沢大学理学部） 講演：分光分析装置の最近の進歩（橘 芳実） 化学及び金属工業に対する発光分光分析の応用（小田仲彬） 古文化財研究に対する発光分光分析の応用（山崎一雄）</p> <p>1月18～19日 クロマトグラフ討論会（名古屋工業大学）</p> <p>1月20～21日 第1回分析化学レクチャー（名古屋工業大学） 講義：ガスクロマトグラフィーの理論（益子洋一郎） ポーラログラフィー（館 勇） 放射化学分析（本島健次） 有機元素分析（今枝一男） 発光分光分析（浜口隆信） 分析化学雑感（菅原 健）</p> <p>2月20日 講演会（愛知県文化会館） 講演：機器分析の現状について（武内次夫） 工業 X 線分析法について（久保輝一郎） 映画：機器分析</p>

<p>1961年度 (昭36)</p>	<p>〔分析化学会創立10周年〕 (支部長) 山崎一雄 (副支部長) 小田仲彬、木下弥兵衛 (常任幹事) 飯田忠三、飯沼弘司、今枝一男、入谷信彦、大井信一、太田一男、小沢昭弥、小玉数信、斉藤 謙、坂本重一、杉山良隆、田中元治、中川元吉、松平 順、松前鼎一、村田 旭</p> <p>8月25～26日 第3回講習会 (名古屋市立大学薬学部) 講義：キレート化合物概説 (山崎一雄、田中元治) キレート滴定概説 (武内次夫) 薬品分析におけるキレート滴定 (木下弥兵衛) 金属分析におけるキレート滴定 (太田一男) 実習：キレート滴定</p> <p>10月6～7日 浜松地方大会 (静岡大学工学部) 講演15件、特別講演3件</p> <p>11月18日 10周年記念講演会 (荒川長太郎合名会社) 講演：電子スピン共鳴の分析への応用 (栗田雄喜生) 映画：ファイグルの点滴反応、自然の忘れた世界、未来の家</p> <p>11月29日 10周年記念講演会 (富山県工業試験場) 講演：分配による分離 (木羽敏泰) 放射能を利用する化学分析 (浜口 博)</p>
<p>1962年度 (昭37)</p>	<p>(支部長) 武内次夫 (副支部長) 上田俊三、小山忠四郎 (常任幹事) 飯沼弘司、今枝一男、入谷信彦、太田一男、熊田恭一、小玉数信、斉藤 謙、杉山良隆、田中元治、寺田喜久雄、中川元吉、村田 旭、森田 清、山本善一</p> <p>8月28～30日 第4回講習会 (名古屋工業技術試験所) 講義：炎光光度法 (蟹江照行) 原子吸光分析法 (鈴木正巳) 吸光光度法 (柴田正三) ポーラログラフ法 (砂原広志) ガスクロマトグラフ法 (武内次夫) 実習：上記5コース</p> <p>10月4～6日 第6回放射化学討論会 (金沢大学)</p> <p>11月6～9日 研究発表会 (名古屋市工業研究所) 研究発表、特別講演合わせて35件</p>
<p>1963年度 (昭38)</p>	<p>(支部長) 木羽敏泰 (副支部長) 太田一男、森田 清 (常任幹事) 今枝一男、入谷信彦、大沢真澄、斉藤 謙、杉山良隆、田中元治、寺田喜久雄、中川元吉、村田 旭、山本善一</p> <p>8月25～28日 第5回講習会</p>

	<p>(名古屋工業大学、名古屋工業技術試験所、名古屋大学工学部)</p> <p>講義：溶媒抽出及びキレート滴定(中川元吉、田中元治) 発光分光分析(山崎一雄、森田 清) X線分析(武内次夫) 放射化分析(浜口 博)</p> <p>実習：溶媒抽出及びキレート滴定、発光分光分析、蛍光X線分析</p> <p>10月8～11日 第12年会(金沢大学、実行委員長 石橋雅義) 研究発表：219件、特別講演：3件、参加者：478名、第1回学会賞授賞式、 見学会：高岡-富山-魚津、能登半島、金沢市内の3班</p> <p>11月5～7日 第10回ポーラログラフ討論会(日本生命ビル)</p> <p>2月17～19日 NMR講習会(名古屋大学工学部) 講義：4件</p>
1964年度 (昭39)	<p>(支部長)木下弥兵衛(副支部長)入谷信彦、小玉数信、阪上正信 (常任幹事)板谷芳京、今枝一男、大沢真澄、北野 康、小池 久、斉藤 謙、杉山良隆、 田中元治、寺田喜久雄、中川元吉、村田 旭、山本善一、安井永三</p> <p>8月27～29日 第6回講習会(名古屋市立大学薬学部) 講義：医薬品製剤の分析法(木下弥兵衛) 水分定量法概説(舟阪 渡)</p> <p>実習：A. P. D. 製剤を基剤として、二、三の薬品をそれに配合した解熱鎮 痛剤の分析、水分定量法</p> <p>開催日不明 講演会(福井大学) 講演：元素分析の統一化とその問題点(小田仲彬) 核磁気共鳴と化学(藤原鎮男) スライド：核磁気共鳴とその応用例</p> <p>11月11日 有機微量分析法中酸素直接定量法討論会(名古屋市工業研究所) 討論：7件</p>
1965年度 (昭40)	<p>(支部長)小玉数信(副支部長)入谷信彦、大井信一、田中元治 (常任幹事)足立敏夫、井口正信、石井大道、板谷芳京、今枝一男、岩永忠勝、太田一男、 蟹江照行、北野 康、小山忠四郎、阪上正信、杉山良隆、鈴木 孝、高林 昇、寺田喜久 雄、中川元吉、野村 昇、開 三郎、村田 旭、森田 清、安井永三、吉森孝良</p> <p>5月13～15日 元素分析講習会(富山県工業試験場) 講義：微量てんびん取扱法および炭水素、窒素、酸素の定量 実習：普通型及び迅速型機器使用</p> <p>5月16日 第29回元素分析シンポジウム(富山大学薬学部) 討論：13件、特別講演：1件</p> <p>8月26～27日 第7回講習会(静岡薬科大学)</p>

	<p>講義：キレートを利用する分析法（入谷信彦） 放射化学分析法（神原富尚） 電気微量分析法（尾崎徳郎）</p> <p>実習：放射化学分析法、電気微量分析法</p> <p>10月17～18日 研究発表会（名古屋大学工学部） 研究発表：12件</p> <p>12月8日 実用分析化学講演会（名古屋市工業研究所） 講演：Si、P、Asの比色分析法（金森 悟） アルミニウム合金の迅速分析法（向井孝一） 一般的な分析機器の取扱い注意（石井大道）</p>
1966年度 (昭41)	<p>（支部長）森田 清（副支部長）今枝一男、角尾貞之、水池 敦 （常任幹事）足立敏夫、井口正信、石井大道、板谷芳京、岩永忠勝、入谷信彦、大井信一、太田一男、蟹江照行、北野 康、黒崎正三、小山忠四郎、阪上正信、柴田正三、砂原広志、田中元治、立松 晃、寺田喜久雄、中川元吉、野村 昇、村田 旭、安井永三、山本善一、米窪達雄</p> <p>5月15～16日 第31回元素分析シンポジウム（静岡薬科大学） 講演：16件</p> <p>8月25～27日 第8回講習会（名古屋大学工学部、名古屋工業技術試験所） 特別講義：高分子分析の最近の進歩（武内次夫） 極微量成分分析の最近の進歩（水池 敦） 大気汚染分析の最近の進歩（北川徹三） 実習：ガスクロマトグラフィー、原子吸光分析、自動滴定、分析化学エレクトロニクス入門、蛍光X線分析、高感度ポーラログラフィー、自動分析（プロセス蛍光X線分析法、プロセスボルタンメトリー、プロセス吸光光度法）</p> <p>11月1～4日 研究発表会（名古屋市科学館） 研究発表：36件</p> <p>1月20日 自動車排気ガス分析法講演会（名古屋ホテル） 講演：3件</p> <p>2月9日 第44回X線工業分析法研究懇談会（名古屋ホテル） 講演：3件</p>
1967年度 (昭42)	<p>〔中部支部創立10周年〕 （支部長）武内次夫（副支部長）今枝一男、上田俊三、水池 敦 （常任幹事）足立敏夫、井口正信、石井大道、入谷信彦、岩永忠勝、太田一男、北野 康、黒崎正三、小山忠四郎、柴田正三、鈴木泰三、鈴木義仁、砂原広志、田中元治、立松 晃、角尾貞之、寺田喜久雄、中川元吉、野村 昇、村田 旭、山本善一、米窪達雄</p>

	<p>7月3～6日 第28回討論会（名古屋市科学館、実行委員長 武内次夫） 討論主題〔高分子分析、公害の分析化学、高純度物質の分析化学、一般分析〕 一般討論：78件、特別討論：3件、特別講演：2件、工場見学、エキスカーション</p> <p>7月5日 中部支部創立10周年記念講演会（名古屋市科学館） 記念講演：素人分析化学者40年の思い出（菅原 健） 中部支部10年の回顧（内藤多喜夫）</p> <p>8月24～26日 第9回講習会（金沢大学理学部、工学部） 講義：元素分析（フラスコ燃焼法）（板谷芳京） デリバトグラフィー（土屋亮吉） 旋光分散（柴田村治） 電子スピン共鳴（清水立生） 炎光光度法（上田俊三） 自動電位差滴定及び電導度滴定（木羽敏泰） ガスクロマトグラフィー（小田仲彬） 原子吸光分析（武内次夫） 実習：デリバトグラフィー及び旋光分散、自動電位差滴定及び伝導度滴定、原子吸光分析及び炎光光度法、ガスクロマトグラフィー及び電子スピン共鳴、元素分析</p> <p>9月28日 訪日学者講演会（名古屋大学法学部） 講演：G. Wohllebenn</p> <p>10月16～17日 第4回X線工業分析討論会（名古屋大学法学部）</p> <p>10月17～20日 研究発表会（名古屋大学法学部） 研究発表：35件</p> <p>12月5～6日 原子吸光分析講習会（名古屋市工業研究所） 講演：原子吸光分析の原理と有機材料への応用（武内次夫） 原子吸光分析の進歩と無機材料への応用（鈴木正巳） 実習：2件</p> <p>2月6日 講演会（名古屋市科学館） 講演：スパークソース質量分析器による無機成分の分析（水谷 武） 電力会社における機器分析の現状（宮川 稔） ゲルパーミエーションクロマトグラフィーについて（木村幾生）</p>
1968年度 (昭43)	<p>（支部長）小田仲彬（副支部長）神原富尚、神戸正雄、鈴木正巳 （常任幹事）足立敏夫、飯田忠三、石井大道、板谷芳京、太田一男、喜谷喜徳、北野 康、小山忠四郎、椎尾 一、柴田正三、鈴木義仁、砂原広志、田中元治、立松 晃、角尾貞之、中川元吉、林 滋彦、三賀森 務、水池 敦、村田 旭</p> <p>5月24～26日 第35回元素分析、第3回微小質量測定合同シンポジウム</p>

	(福井大学教育学部)
8月27～29日	<p>研究発表：17件、特別講演：2件、パネル討論会 第10回講習会（名古屋工業大学） 講義：液-液クロマトグラフィーによる無機イオンの分離（木羽敏泰） 原子吸光分析（飯田忠三） キレート滴定（中川元吉、田中元治） 実習：キレート滴定、原子吸光分析</p>
10月16～18日	<p>第5回 X線工業分析討論会（名古屋大学法学部） 一般討論：14件、特別講演：6件</p>
10月17日	<p>研究発表会（名古屋大学法学部） 一般研究発表：22件</p>
1月25日	<p>講演会（静岡大学工学部） 講演：大気汚染の自動分析（武内次夫） 産業廃水の水質自動分析（砂原広志）</p>
2月1日	<p>第49回 X線工業分析法懇談会（中部科学技術センター） 講演：2件</p>
1969年度 (昭44)	<p>(支部長) 田中元治 (副支部長) 石井大道、桜場周吉、米窪達雄 (常任幹事) 太田一男、板谷芳京、椎尾 一、鈴木正巳、砂原広志、角尾貞之、中川元吉、 林 滋彦、村田 旭</p> <p>8月25～27日 第11回講習会（名古屋大学工学部） 特別講義：ラボラトリーオートメーションの現状と将来（石田順一） 分析用有機試薬に関する最近の話題（上野景平） 実習：ガスクロマトグラフィー、原子吸光分析、高感度ポーラログラ フィー及びストリップング法、X線分析、放射線利用分析、高分 子分析、トレースアナリシスにおける分離濃縮、産業廃水の機器 分析</p> <p>10月13～16日 第1回中部化学関連学協会支部連合秋季大会（名城大学薬学部） 一般研究発表（分析関係）：38件、特別講演：5件</p> <p>10月13～14日 第6回 X線工業分析討論会（名古屋大学工学部） 研究発表：21件、特別討論：4件</p> <p>11月16日 第13回放射化学討論会（名古屋工業大学）</p> <p>11月8日 講演会（福井大学教育学部） 講演：機器による高分子分析（武内次夫） 溶媒抽出法による金属の定量（田中元治）</p> <p>12月8日 講演会（名古屋市工業研究所）</p> <p>2月3日 第55回 X線工業分析法研究懇談会（中部電力総合技術研究所） 講演：2件</p>

<p>1970年度 (昭45)</p>	<p>(支部長) 桜場周吉 (副支部長) 石井大道、柴田村治、水池 敦 (常任幹事) 井口正信、飯田忠三、大滝仁志、太田一男、河口広司、椎尾 一、柴田正三、立松 晃、寺田喜久雄、林 滋彦、三賀森 務、村田 旭</p> <p>8月25～27日 第12回講習会 (名城大学薬学部、名古屋大学工学部) 特別講義：錯体化学の医薬品への応用 (坂口武一) 産業廃水の連続機器分析 (砂原広志) 実習：ガスクロマトグラフィー、原子吸光分析、X線分析、赤外分光分析、蛍光光度分析、発光分光分析、液体クロマトグラフィー、核磁気共鳴スペクトル、GC-MS、産業廃水分析</p> <p>10月13～16日 第19年会 (名城大学薬学部、実行委員長 桜場周吉) 研究発表：286件、参加者：1057名 見学会：浜名湖方面、鈴鹿方面</p> <p>10月13～14日 第7回X線工業分析討論会 (名城大学薬学部) 研究発表：20件、特別討論：5件</p> <p>10月16～18日 第2回中化連秋季大会 (名古屋大学工学部) 一般研究発表 (分析関係)：7件、特別講演：4件</p> <p>10月17日 公害に関する講演会 (金沢大学教養部) 講演：わが国の大気汚染と水質汚濁 (佐谷戸安好) カドミウムの生体に対する影響について (久保田憲太郎)</p> <p>2月6日 高分子分析講演会 (中部科学技術センター) 講演：核磁気共鳴による高分子分析 (藤原鎮男) クロマトグラフによる高分子分析 (武内次夫)</p> <p>2月6～7日 工場見学会：東洋醸造(株)本社工場</p>
<p>1971年度 (昭46)</p>	<p>(支部長) 水池 敦 (副支部長) 石井大道、椎尾 一、三賀森 務 (常任幹事) 井口正信、飯田忠三、河口広司、神戸正雄、喜谷喜徳、柴田正三、柴田村治、寺田喜久雄、中井信之、西井義隆、藤島 巖、村田 旭</p> <p>7月3日 講演会 (信州大学理学部) 講演：迅速電解法の進歩 (藤永太郎) 産業廃水の水質自動分析法 (砂原広志) イオン交換体の分析化学的利用 (森 芳弘)</p> <p>8月25～27日 第13回講習会 (名古屋工業技術試験所) 特別講義：大気汚染の機器分析 (荒木 峻) 最近の原子スペクトル分析 (武内次夫) 実習：原子吸光分析、ガスクロマトグラフ分析、産業廃水の水質機器分析、二波長分光測定分析、高周波プラズマスペクトル分析</p> <p>9月11日 講演会 (富山県民会館) 講演：機器分析の最近の動向について (藤原鎮男)</p>

	<p style="text-align: center;">原子吸光分析について—公害分析への応用（酒井 馨） 公害分析所感（木羽敏泰）</p> <p>10月16～19日 第3回中化連秋季大会（名古屋大学工学部） 一般研究発表（分析関係）：8件、特別講演：3件</p> <p>11月13日 講演会（福井大学工学部） 講演：陸水水質の現状と展望（北野 康） 海洋水質の現状と展望（岡部史郎） 産業廃水処理法（市川邦久）</p> <p>11月26日 産業廃水の機器分析に関する講習会（静岡県工業試験場）</p> <p>1月28～29日 工場見学会：日本専売公社浜松工場、静岡県水産試験場</p>
<p>1972年度 (昭47)</p>	<p>(支部長) 石井大道 (副支部長) 上田俊三、椎尾 一、村田 旭 (常任幹事) 小友 允、鎌田栄二郎、神戸正雄、喜谷喜徳、小辻奎也、鈴木義仁、中井信之、根津弘幸、林 滋彦、藤島 巖、三賀森 務、山本善一</p> <p>4月8日 訪日学者講演会（名古屋大学工学部）</p> <p>4月9日 〃 （静岡大学工学部）</p> <p>4月12日 〃 （金沢大学理学部）</p> <p style="text-align: center;">講演：Chemical Analysis of Environmental Samples and Rapid Method for Radioactive Monitoring in the Federal Republic of Germany (B. Sansoni)</p> <p>4月21日 訪日学者講演会（名古屋大学理学部） 講演：Ion Selective Electrode (H. Freiser)</p> <p>5月17日 公害防止管理測定技術講習会（名古屋市工業研究所） 講義：大気汚染における測定技術（椎尾 一） 大気汚染における機器分析（鈴木義仁） 水質汚濁における機器分析（石井大道） 水質汚濁の現場的簡易分析（蟹江照行）</p> <p>8月23～25日 第14回講習会（名古屋市立大学薬学部） 特別講義：環境試料の分析化学（木羽敏泰） 機器による臨床化学分析（藤井達三） 実習：ガスクロマトグラフィー（環境試料、生体試料）、原子吸光分析、 吸光光度法</p> <p>8月29日 電気化学基礎講習会—電気化学測定法入門（東別院青少年会館） 講義：7件</p> <p>10月11～14日 第4回中化連秋季大会（中京大学） 一般研究発表（分析関係）：52件 特別討論会〔分析化学における有機試薬の利用〕 特別講演：2件、研究発表：19件</p> <p>10月11日 第9回X線分析討論会（中京大学）</p>

	<p>特別講演：4件、研究発表：18件</p> <p>10月28日 訪日学者講演会（名古屋大学理学部）</p> <p>11月25日 講演会（金沢大学工学部） 講演：生体試料からの医薬品分析（田村善蔵） 大気汚染成分の分析の現状と問題点（荒木 峻）</p> <p>1月16日 講演会（中部科学技術センター） 講演：高速液体クロマトグラフィーについて－装置と応用（浅井 圭） スペクトルデータのコンピューター解析による有機化合物の構造推定－現状と将来（佐々木慎一）</p> <p>2月9～10日 工場見学会：三井東圧化学(株)総合研究所、(株)資生堂大船工場</p> <p>2月20日 若手会員懇話会（中部科学技術センター） 若手会員講演：10件</p>
<p>1973年度 (昭48)</p>	<p>(支部長) 上田俊三 (副支部長) 入谷信彦、喜谷喜徳、村田 旭 (常任幹事) 小友 允、鎌田栄二郎、小辻奎也、椎尾 一、鈴木正巳、鈴木義仁、滝野吉雄、中川元吉、根津弘幸、野村 昇、林 滋彦、山寺秀雄、山本善一</p> <p>8月23～25日 第15回講習会（金沢大学工学部、理学部、薬学部） 特別講義：クロマトグラフィーとスペクトロメトリーの直結分析法について（石井大道） 実習：ガスクロマトグラフィー、核磁気共鳴、分散型蛍光 X 線分析、非分散型蛍光 X 線分析・γ線解析、試料処理法、強リン酸を用いる分析法、温度滴定、高速液体クロマトグラフィー</p> <p>8月28～29日 電気化学基礎講習会（東別院青少年会館） 講義：8件</p> <p>10月16～17日 第5回中化連秋季大会（名古屋工業大学） 一般研究発表（分析関係）：13件 特別討論会〔けい酸塩分析〕 招待講演：けい酸塩分析の最近の話題（多田格三） けい酸塩分析における諸問題（西村耕一） パネル討論会：講演8件 研究発表：6件</p> <p>11月12～13日 高速液体クロマトグラフィー講習会（名古屋市工業研究所） 講義：高速液体クロマトグラフの理論と装置（武内次夫） 高速液体クロマトグラフの有機化学への応用（平田義正） 実習：6件</p> <p>2月2日 講演会（静岡大学工学部） 講演：悪臭防止技術の問題点（福地知行） 水質汚濁防止技術の問題点（梅沢岑生）</p> <p>2月8～9日 工場見学会：関西電力美浜原子力発電所</p>

	2月14日	油化学講習会（中部科学技術センター）
	2月16日	第86回 X線分析研究懇談会（名古屋大学工学部） 講演：3件
1974年度 (昭49)		<p>（支部長）入谷信彦（副支部長）喜谷喜徳、佐竹正忠、山寺秀雄 （常任幹事）伊豆津公佑、金森 悟、河口広司、椎尾 一、柴田正三、鈴木諄亮、鈴木正巳、滝野吉雄、寺田喜久雄、中川元吉、野村 昇、野路雅英、和田弘子</p> <p>5月20～21日 有機微量分析研究懇談会・質量測定研究会合同シンポジウム（榎原高原－読売山荘） 研究発表：12件、特別講演：1件</p> <p>7月22～23日 機器による高分子分析講習会（名古屋市工業研究所） 講義：3件、実習：4件</p> <p>8月25日 第16回講習会（静岡薬科大学） 講義：臨床化学分析と医療の接点（星 昭二） 炎光分析と原子吸光分析（鈴木正巳） 自動分析機器（入谷信彦） 臨床生化学分析（奥田 潤） 関連機器・試薬の展示</p> <p>10月16～18日 第6回中化連秋季大会（名古屋大学工学部） 一般研究発表（分析関係）：13件 特別討論会〔クロマトグラフィー〕 研究発表：28件、特別講演：2件</p> <p>11月9日 講演会（福井大学工学部） 講演：環境香料の考え方（吉田克巳） 水圏環境化学の考え方（藤永太郎）</p> <p>11月22～23日 見学会：茨城大学五浦美術文化研究所 呉羽化学工業(株)錦工場 宿泊：いわき市国民宿舎塩屋崎荘</p> <p>12月5日 講演会（四日市農協会館） 講演：廃水の自動測定法（砂原広志） 高分子データ集積の現状と今後の問題（竹田政民） 最近の機器分析の動向（武内次夫）</p> <p>2月6日 第3回原子吸光分析研究懇談会（名古屋大学工学部） 講演：2件</p>

1975年度
(昭50)

〔ぶんせき〕創刊

- (支部長) 喜谷喜徳 (副支部長) 神原富尚、寺田喜久雄、山寺秀雄
(常任幹事) 金森 悟、河口広司、後藤克己、佐竹正忠、柴田正三、清水純夫、鈴木諄亮、鈴木 孝、野路雅英、舟橋重信、宮崎元一、森 定雄、和田弘子
- 5月22～23日 第36回討論会 (金沢大学工学部、実行委員長 木羽敏泰)
討論主題〔環境こん跡分析と環境化学計測〕
特別講演: Method of Standards for Trace Analysis in the Environment (P. D. LaFleur) 及び (I. L. Barnes)
研究発表: 101件
- 5月27日 訪日学者講演会 (名古屋大学工学部)
講演: Recent Development in Organic Micro Chemistry (T. S. Ma)
- 8月20～22日 第17回講習会 (名古屋市立大学薬学部)
講義: 生体試料について (奥谷博俊)
環境試料について (長谷川敬彦)
生体及び環境試料の機器分析について (武者宗一郎)
実習: 原子吸光分析、高速液体クロマトグラフ分析、ガスクロマトグラフ分析、二波長分光光度分析
- 10月7日 排水分析講習会 (名古屋市工業研究所)
講義: 3件、実習: 1件
- 10月14日 訪日学者講演会 (名古屋大学理学部)
講演: Solvent Extraction and Coordination Chemistry (Y. Marcus)
- 10月20～23日 第7回中化連秋季大会 (名古屋大学工学部)
一般研究発表 (分析関係): 30件
特別討論会〔分析化学における鎖体化学の利用〕
招待講演: 金属キレート陽イオンによる陰イオンの溶媒抽出 (山本勇麓)
硫黄配位錯形成剤の反応と応用— α - β -ジケトン関連化合物を中心として (田中 久)
研究発表: 23件
- 11月7日 講演会 (富山県薬業会館)
講演: トレースアナリシスの諸問題 (水池 敦)
選択性金属吸着剤・固定剤の開発と環境保全 (小田伸彬)
- 1月31日 講演会 (静岡大学教養部)
講演: 3件
- 2月6～7日 見学会: (株)養命酒駒ヶ根工場、(株)タケヤ味噌上諏訪工場
懇親会と宿泊: 連合会共済諏訪湖荘
- 2月10日 機器分析講習会—高速液体クロマトグラフィーの適用と問題点
(名古屋市工業研究所)
講義: 原理及び装置 (武内次夫)
高速液体クロマトグラフィーの簡易マイクロ化 (石井大道)
分離様式を選択法 (森 定雄)

	<p style="text-align: center;">パネル討論</p> <p>3月26日 化学英語講習会（名古屋市立科学館）</p>
1976年度 (昭51)	<p>(支部長) 山寺秀雄 (副支部長) 神原富尚、鈴木正巳、野村 昇 (常任幹事) 井口正信、小島 功、小辻奎也、後藤克己、佐竹正忠、清水純夫、鈴木 孝、 中島良三、舟橋重信、宮崎元一、三輪智夫、森 定雄</p> <p>5月10日 訪日学者講演会（名古屋大学工学部） 講演：Recent Development in Atomic Absorption and Atomic Fluorescence Spectroscopy (T. S. West)</p> <p>5月15日 訪日学者講演会（名古屋大学工学部） 講演：Biological and Analytical Perspective on Zinc Biochemistry (B. L. Vallee)</p> <p>8月18～20日 第18回講習会（名古屋大学工学部） 特別講義：超微量成分分析における汚染とその対策（水池 敦） 環境汚染と分析化学（山県 登） 実習：原子吸光分析、高速液体クロマトグラフ分析、ガスクロマトグラフ 分析、赤外吸収スペクトル分析、電気分析</p> <p>10月4～6日 第20回放射線化学討論会（静岡大学教養部） 研究発表：91件、特別講演：4件</p> <p>10月16～18日 第8回中化連秋季大会（名古屋大学農学部） 一般研究発表（分析関係）：14件 特別討論会〔原子吸光分析〕 研究発表：19件、パネル討論</p> <p>2月1日 講演会（信州大学工学部） 講演：分離について（品川睦明） イオン会合性試薬について（桐栄恭二） 化学発光を利用する連続分析機器（岡 正太郎）</p> <p>2月4日 講演会（金沢大学工学部） 講演：不足当量反応の分析化学への応用（鈴木信男） 環境放射能分析の動向（浜口 博） アクリル系化合物の生体作用（橋本和夫）</p> <p>2月4～5日 工場見学会：武田薬品工業(株)湘南工場</p> <p>2月9～10日 実務者のための原子吸光分析講演会（名古屋市工業研究所） 講演：8件</p>
1977年度 (昭52)	<p>(支部長) 神原富尚 (副支部長) 柴田正三、鈴木正巳、宮崎元一 (常任幹事) 井口正信、板谷芳京、小島 功、小辻奎也、中島良三、中須賀德行、根津弘幸、 野村 昇、林 滋彦、水野孝一、三輪智夫、山崎 豊</p>

	<p>4月18～19日 化学英語講習会（名古屋市科学館）</p> <p>8月25～26日 第19回講習会（名古屋大学工学部、名古屋工業大学） 特別講義：水質分析－重金属元素の分析（北野 康） 機器分析における有機試薬の利用（柴田正三） 液体イオン交換剤を用いる化学分離法（中川元吉） 実習：高速液体クロマトグラフィー、原子吸光分析</p> <p>9月19日 H. Freiser 教授を囲む懇談会（名古屋工業大学）</p> <p>9月27日 環境分析講習会（名古屋市工業研究所） 講演：産業廃棄物溶質試験の実際（杉木仁彦） 水質簡易分析の展望（蟹江照行） 実習：水質簡易分析機器</p> <p>10月16～18日 第9回中化連秋季大会（名古屋工業大学） 一般研究発表（分析関係）：14件</p> <p>1月23日 講演会（四日市農協会館） 講演：化学測定における標準物質と標準データ（益子洋一郎） 環境化学分析の諸問題（荒木 俊）</p> <p>1月27日 講演会（富山大学図書館） 講演：環境放射能研究と分析化学（阪上正信） 鉱山廃水による洞爺湖の汚染とその防止（後藤克己）</p> <p>2月3～4日 工場見学会：中部電力浜岡原子力発電所</p>
1978年度 (昭53)	<p>〔中部支部創立20周年〕 (支部長) 宮崎元一 (副支部長) 小辻奎也、柴田正三、鈴木正巳 (常任幹事) 石塚紀夫、板谷芳京、後藤克己、鈴木諄亮、鈴木真言、柘植 新、寺田喜久雄、 中須賀徳行、根津弘幸、野村 毅、林 滋彦、水野孝一、森 定雄、山本善一</p> <p>4月21日 訪日学者講演会（名古屋大学工学部） (R. G. Bates)</p> <p>5月29～30日 有機微量分析懇談会、質量測定研究会合同シンポジウム (エーザイ内藤記念館くすり博物館) 研究発表：25件、特別講演：1件</p> <p>6月6～7日 講演会及び展示会－東海無機分析研究会20周年記念(名古屋市工業研究所) 講演：自動車工業における EPMA 分析（伊勢 淳） 分析用有機試薬の現状（柴田正三） アルミニウム合金分析の歴史と現状（向井孝一） 最近の鉄鋼分析について（伊東応仁） 内湾の海況と分析化学上の問題点（太田立男） 最近の液体クロマトグラフィーについて（石井大道） フッ素の湿式分析法（小玉数信） 公定法分析法の動向（多田格三）</p> <p>7月6～7日 研究者、技術者、学生のための英語講習会（名古屋市科学館）</p>

	<p>7月10日 講演会と工場見学会（第二精工舎足利工場、大昭和製紙鈴川工場） 講演：2件</p> <p>8月24日 第20回講習会（名城大学薬学部） 特別講義：新しい機器分析法の展望（立松 晃） 微量分析法としてのマススペクトロメトリー（鈴木真言） イソタコフォレーシスの現状と将来（宮崎 浩） 実習：高速液体クロマトグラフィー、原子吸光分析</p> <p>10月5～6日 第5回環境汚染物質とそのトキシコロジーシンポジウム（静岡県医師会館）</p> <p>10月11～15日 第27年会（金沢大学、実行委員長 上田俊三） 研究発表：426件、参加者：1201名</p> <p>11月11日 講演会（福井大学工学部） 講演：環境汚染物質の生体濃縮について（吉田多摩夫） 環境分析における標準試料（木羽敏泰）</p> <p>11月25日 中部支部創立20周年記念講演会（王山会館） 講演：古代青銅器及びガラスの研究に対する質量分析の応用・鉛同位体比の測定（山崎一雄） LCの検出器・特にMSについて（武内次夫） 分離法20年の進歩と将来への希望（木羽敏泰）</p> <p>12月8～9日 見学会：筑波研究学園都市、協和醸酵工業(株)土浦工場</p>
1979年度 (昭54)	<p>(支部長) 鈴木正巳 (副支部長) 河口広司、柴田正三、林 滋彦 (常任幹事) 石塚紀夫、伊豆津公佑、河合 聡、後藤克己、桜井定人、佐竹正忠、鈴木諄亮、鈴木真言、柘植 新、寺田喜久雄、野村 毅、長谷川敬彦、村田 旭、森 定雄</p> <p>4月9日 訪日学者講演会（名古屋大学工学部） 講演：Capillary Gas- and Liquid-Chromatographies, and their Biochemical Applications (M. Novotony)</p> <p>5月19～20日 化学英語講習会（名古屋市科学館）</p> <p>8月22～23日 第21回講習会（名古屋大学工学部） 講義：高周波プラズマ発光分析の現状（河口広司） フレイムレス原子吸光分析とその問題点（鈴木正巳） 最近の高速液体クロマトグラフィー（石井大道） LC-MS 直結システムの展望（柘植 新） 高速ゲルパーミエーションクロマトグラフィー（GPC）（森 定雄） 実習：上記の5コース</p> <p>9月6～7日 電気化学基礎講習会（名古屋工業大学） 講演：4件、実習：2件</p> <p>10月4～6日 第10回中化連秋季大会（静岡大学工学部） 一般研究発表（分析関係）：12件 特別討論会〔液体クロマトグラフィーの高性能化〕</p>

	<p>研究発表：22件、パネル討論</p> <p>11月9日 講演会（金沢大学理学部） 講演：法科学と放射化分析（狐塚 寛） 高速液体クロマトグラフィーのミクロ化について（石井大道）</p> <p>12月7～8日 工場見学会：エーザイ(株)川島工場・内藤記念館くすり博物館</p> <p>1月23日 講演会（岐阜大学工学部） 講演：化学薬品の法規制と安全な取り扱い（木本三夫） クロマトグラフィーの新しい応用－熱分解による高分子の構造解析及びLC-MS直結（柘植 新）</p> <p>2月26日 分析機器へのマイコンの利用講習会（名古屋市工業研究所） 講義：4件、実習：2件</p>
<p>1980年度 (昭55)</p>	<p>(支部長) 柴田正三 (副支部長) 河口広司、後藤克己、中川元吉 (常任幹事) 石塚紀夫、伊豆津公佑、河合 聡、後藤正志、桜井定人、鈴木諄亮、中須賀徳行、野村 昇、長谷川敬彦、林 滋彦、山本善一、山田碩道、和田弘子</p> <p>4月12～13日 技術系社員・研究者・学生のための化学英語講習会（名古屋市科学館）</p> <p>8月19～20日 第22回講習会（名古屋大学工学部） 講義：ICP 発光分光分析の現状（河口広司） 高速液体クロマトグラフィー（石井大道） 最新の吸光光度法（柴田正三） 最近のポーラログラフィーとストリッピングボルタンメトリー (後藤正志) マイコンの分析化学への応用（制御とデータ処理）（河合勝司） 実習：上記5コース</p> <p>9月2～3日 電気化学基礎講習会（名古屋工業大学） 講義：9件、実習：4件</p> <p>9月13日 講演会（富山大学理学部） 講演：ラマンで分子を見たとき（川井清保） 工業化のためのアイデア（兎玉 寛） 私のとっておきの発想法（泉 美保）</p> <p>10月16～18日 第11回中化連秋季大会（名古屋大学工学部） 一般研究発表（分析関係）：13件 特別討論会〔吸光光度法の再発見〕 招待講演：流れを用いる吸光光度法について（石井大道） 有機試薬の感度向上を旨として（桐栄恭二） 研究発表：20件</p> <p>10月31日 講演会（信州大学理学部） 講演：マイクロカラム液体クロマトグラフィーの最近の進歩（石井大道） 最近の新しい機器分析法（池田重良）</p>

	<p>11月25日 訪日学者講演会（名古屋大学理学部） 講演：Thermodynamics of Dioxygen Complex Formation (A. E. Martell)</p> <p>11月27日 訪日学者講演会（名古屋大学豊田講堂） 講演：Strategies in the Determination of Elements in Extremely Low Concentrations (G. Tölg)</p> <p>11月28日 講演会（名古屋大学豊田講堂） 講演：岩石、イン石、廃水ートレースアナリシス経験談（大西 寛） トレース量の元素定量のための予備濃縮（寺田喜久雄）</p> <p>12月5～6日 工場見学会：東洋醸造(株)本社工場</p> <p>1月20日 オープンセミナー（愛知県中小企業センター） 講演：5件</p> <p>1月30日 講演会（富山大学理学部） 講演：高速液体クロマトグラフィーの分離条件の選び方（野村 昇） 界面活性剤溶液の相分離現象を利用する抽出法（渡辺寛人） 衛生薬学と無機微量分析（宮崎元一）</p>
<p>1981年度 (昭56)</p>	<p>(支部長) 中川元吉 (副支部長) 飯田忠三、寺田喜久雄、村田 旭 (常任幹事) 後藤克己、後藤正志、清水純夫、滝野吉雄、柘植 新、中嶋邦雄、林 滋彦、水野孝一、森 定雄、山田碩道、山田真吉、山本善一、和田弘子</p> <p>5月28～29日 第42回討論会（グリーンホテル三ヶ根、実行委員長 田中元治） 討論主題〔微量分析、分析化学と溶液化学〕 主題講演：120件 一般講演：48件（内ポスター発表：42件） 製品紹介講演：15件 記念講演：Surface Problem of Ion-Selective Electrode (E. Pungor) 参加者：421人</p> <p>6月1～2日 第48回有機微量分析研究会シンポジウム（金沢大学医学部） 講演：15件、特別講演：1件</p> <p>7月4日 講演会（金沢大学教養部） 講演：2件</p> <p>7月14～17日 化学英語講習会（名古屋市科学館） 講義：3件</p> <p>8月4日 講演会（名古屋大学工学部） 講演：Atomic Fluorescence Spectrometry (J. D. Winefordner)</p> <p>8月26～28日 第23回講習会（名古屋工業大学） 特別講義：微量分析の最近の動向（石井大道） 接触分析（田中元治） 実習：イオン選択性電極、原子吸光分析、高速液体クロマトグラフィー、 フローインジェクション法</p>

	<p>受講者：41名</p> <p>9月10日 講演会（名古屋工業大学） 講演：Flow Injection—A New Tool for Instrumental Analysis (J. Ruzicka)</p> <p>9月11日 訪日学者講演会（名古屋大学工学部） 講演：ICP-AES, Selected Topics (P. W. J. M. Boumans)</p> <p>10月7日 講演会（信州大学理学部） 講演：Atomic Spectrometry of Biosignificant Trace Elements in Soils, Plant and Animal Nutrition (T. S. West)</p> <p>10月8～10日 第12回中化連秋季大会（名古屋大学教養部） 一般研究発表（分析化学、環境化学）：12件 特別討論会〔溶媒抽出〕 招待講演：高分子量アミンによる溶媒抽出（佐藤太一） カルボン酸による金属の抽出（山田碩道） 金属錯体の抽出におよぼす諸因子（関根達也） 研究発表：11件 分析化学講演会：Some New Results in Developments in Field of Electroanalytical Micro and Trace Analysis (F. Umland)</p> <p>11月6日 高分子分析講演会（福井大学教育学部） 講演：3件</p> <p>11月27日 油化学におけるコンピュータ（名古屋観光会館） 講演：4件</p> <p>11月28日 講演会（静岡大学教養部） 講演：NO_x、SO_xの化学（広田栄治） 遺伝現象にせまる化学（三浦謹一郎） 分析化学における研究の開発（木羽敏泰）</p> <p>12月1日 環境と化学に関するパネル討論会（愛知厚生年金会館） 講演：5件、パネル討論</p> <p>12月4～5日 見学会：水産庁養殖研究所（伊勢、志摩） 懇親会と宿泊（賢島観光ホテル和風賢島別館） 参加者：中部支部19名、関東支部16名</p> <p>12月7日 第1回 HPLC 研究談話会（名古屋大学工学部） 講演：2件</p> <p>1月19日 オープンセミナー（名古屋通信会館） 講演：4件</p> <p>1月29日 講演会（金沢大学理学部） 講演：酸化還元不足当量法を用いる放射分析化学（神原富尚） 配位子置換反応の二、三の応用（中川元吉）</p>
--	---

1982年度

(昭57)

- (支部長) 寺田喜久雄 (副支部長) 飯田忠三、伊豆津公佑、村田 旭
 (常任幹事) 板谷芳京、宇井倬二、宇佐美四郎、酒井忠雄、佐竹正忠、鈴木真言、滝野吉雄、
 柘植 新、中嶋邦雄、野村俊明、平出正孝、水野孝一、森 定雄、山田真吉
- 4月20日 講演会(愛知厚生年金会館)
 講演:N. Novotony
- 5月18日 第7回プラズマ分光分析講演会(愛知中小企業センター)
 講演:5件
- 6月3~4日 第49回有機微量分析研究懇談会シンポジウム(信州大学旭会館)
 研究発表:13件
- 7月15日 訪日学者講演会(名古屋大学理学部)
 講演:Hydrophobic Interactions in Mixed Complexes (H. Sigel)
- 7月17日 第3回HPLC研究談話会(名城大学薬学部)
 講演:16件
- 8月26~27日 第1回夏期セミナー(和倉通信保養所)
 主題:原子吸光分析、高速液体クロマトグラフィー
 話題特別講演:“一滴法”原子吸光分析(内田哲男)
 HPLCの無機微量分析への応用(早川和一)
 話題提供講演:疎水性基をもつ吸着剤を用いる微量成分の前濃縮法
 (田口 茂)
 アンモニウム塩を用いる難溶性試料の簡易・迅速分解法
 (松本 健)
 原子吸光分析—四半世紀の歩みと将来の展望(柳沢雅明)
 液体クロマトグラフィーにおける電気化学的検出器
 (原 稔)
 環境・食品・生体試料中の硫酸イオンのHPLC(大久保登)
 有機金属錯体の高速液体クロマトグラフィー
 Co^{III}(tp)Clの分離挙動を中心にして(本間春雄)
- 新製品紹介講演:4件
- 10月7~9日 第13回中化連秋季大会(三重大学教育学部)
 一般研究発表(分析関係):20件
 特別討論会〔流れを用いる分析〕
 研究発表:17件、パネル討論
- 11月5日 訪日学者講演会(名古屋大学理学部)
 講演:The Role of the Interface in Extraction Kinetics and Equilibria
 (H. Freiser)
 Hydrolysis and Related Complexation of Metal Ions (S. Gobom)
- 11月9~11日 第16回化学工学の進歩講演会(気泡・液滴分散工学)(愛知県産業貿易館)
 講演:12件
- 11月19日 講演会(福井大学教育学部)

	<p>講演：毛髪中の重金属について（高木靖弘） 環境水及び排水の窒素とリンの化学計測（砂原広志）</p> <p>12月3～4日 工場見学会：浜松テレビ(株)本社及び豊岡製作所 懇親会と宿泊（国民宿舎奥浜名湖）</p> <p>12月10～11日 第1回溶媒抽出討論会（静岡大学工学部） 研究発表：26件</p> <p>12月11日 第4回 HPLC 研究談話会（名城大学薬学部） 講演：17件</p> <p>1月21日 講演会（信州大学工学部） 講演：環境科学と分析化学（不破敬一郎） 泡で極微量元素を分離する（水池 敦） 代替エネルギー技術と分析化学（中島史登）</p> <p>2月10日 第128回 X線分析研究懇談会（豊橋技術科学大学） 講演：2件</p>
<p>1983年度 (昭58)</p>	<p>(支部長) 飯田忠三 (副支部長) 小辻奎也、柘植 新 村田 旭 (常任幹事) 板谷芳京、宇井倬二、酒井忠雄、鈴木真言、田中一彦、永長幸雄、成田九州男、野村俊明、野村 昇、平出正孝、三井利幸、山田真吉、山田碩道、柳沢雅明、和田弘子</p> <p>3月15日 製品開発特別講演会（富山工業高等専門学校） 講演：1件</p> <p>4月23日 第5回 HPLC 研究談話会（名古屋大学医学部） 講演：1件、パネル討論</p> <p>6月17日 講演会（金沢大学理学部） 講演：難揮発性天然物の化学とマススペクトロメトリー—oligosaccharide を中心として（鈴木真言） 植物種と無機イオン—マクロからミクロの化学へ（小山睦夫）</p> <p>7月7日 講演会（岐阜歯科大学） 講演：生理活性を有する金属錯体の分析について（喜谷喜徳） 有機試薬とフローインジェクション分析法（中川元吉）</p> <p>8月22日 第6回 HPLC 研究談話会 講演：12件、実習：15件</p> <p>8月24～25日 第2回夏期セミナー（和倉通信保養所） 主題：機器分析の実際</p> <p>1) 高速液体クロマトグラフィー 特別講演：HPLC 最近の進歩（森 定雄） 話題提供：HPLC 用カラムの選択性（岡本光美） HPLC と各種スペクトル法の直結化について（神野清勝）</p> <p>2) 特別講演：プラズマ発光法による微量分析（河口広司） 話題提供：カラム電極を用いる電気化学分析法（中田隆二）</p>

	<p>最近の微量電気化学分析について（後藤正志） 石炭液化物分析への GC-MS の最近の応用（長谷川 淳）</p> <p>製品紹介講演：10件 参加者：62名</p> <p>10月16～18日 第14回中化連秋季大会（名古屋工業大学） 一般研究発表（分析関係）：25件 特別討論会〔原子スペクトル分析〕 招待講演：発光分光分析用プラズマ光源への試料導入法（河口広司） 原子吸光分析（原口紘晃） 水素化物発生による原子吸光分析（中原武利）</p> <p>研究発表：18件</p> <p>11月2日 訪日学者講演会（名古屋大学アイソトープ総合センター） 講演：アノードイックストリップングボルタンメトリー（鄧家祺）</p> <p>11月12日 講演会（富山大学） 講演：環境水の同位体地球化学（水谷義彦） 漆を膜材料とするイオン選択性電極（日色和夫） 自然に学ぶ複合材料への展開（松本恒隆）</p> <p>11月22日 講演会（名古屋大学アイソトープ総合センター） 講演：Ion Microscopy and Ion Microprobe Analysis（G. H. Morrison）</p> <p>12月2～3日 工場見学会：昭和電工(株)塩尻工場、東京電力奈川渡ダム 懇親会と宿泊：文部省共済組合乗鞍高原の家（あずみ荘） 参加者：中部支部21名、関東支部13名</p> <p>2月10日 第128回 X 線分析研究懇談会（豊橋技術科学大学） 講演：2件</p>
<p>1984年度 (昭59)</p>	<p>(支部長) 村田 旭 (副支部長) 佐々木慎一、野村 昇、森 定雄 (常任幹事) 宇井倬二、河口広司、後藤克己、佐竹正忠、神野清勝、田中一彦、中須賀徳行、成田九州男、根津弘幸、野路雅英、三井利幸、柳沢雅明、山田碩道、山本善一、和田弘子</p> <p>4月23日 第8回 HPLC 研究談話会（愛知厚生年金会館） 特別講演：1件</p> <p>8月21～22日 第9回 HPLC 研究談話会（名城大学薬学部） 研究発表：23件、実習</p> <p>8月27～28日 第3回夏期セミナー（地方公務員共済組合浜名荘） Aコース：HPLC 話題提供講演：超臨界流体クロマトグラフィー（平田幸夫） キャピラリー液クロ電気泳動検出（寺部 茂） ポルフィリン錯体の液体クロマトグラフィー（斉藤紘一） レーザー蛍光検出による液体クロマトグラフィー （今坂藤太郎）</p>

	<p>製品紹介講演：4件 Bコース：分子設計の可能性を求めて 話題提供講演：薬物設計のためのソフトウェア（高橋由雅） コンピュータ・システム〔ACACS〕（吉田元二） ネットワーク共用による化合物情報等の高度利用システム における中心的化学物質辞書としての、体系名から作り出 される、立体化学的に正確な物質の登録（STARS） （荒木啓介） パーソナルコンピュータと分析化学（吉村忠与志）</p>
10月4～6日	<p>製品紹介講演：3件 ソフトボール大会 参加者：83名 第15回中化連秋季大会（岐阜大学） 一般研究発表（分析関係）：27件 特別討論会〔反応速度を利用する分析法〕 招待講演：金属錯体の反応性と配位子置換反応速度の差を用いる分析化学 （山田真吉） 溶媒抽出の速度－化学工学の立場から（原田 誠） 接触分析を用いる分析法とFIA（深沢 力）</p>
10月10～14日	<p>研究発表：13件 第33年会（名古屋大学教養部、実行委員長 水池 敦） 研究発表：523件、招待講演：2件 ミキサー：サッポロビール浩養園、懇親会：名古屋観光ホテル 見学会：高山－上高地、展示会 参加者：1303名</p>
11月16日	<p>講演会（富山大学教育学部） 講演：粉じんによる大気汚染（川崎軍治） アルミニウム中の微量不純物－分析とその特徴（益田敏彦） 分子構造の予測と性質の予知（佐々木慎一）</p>
11月29日	<p>講演会（名古屋工業大学） 講演：イオン対の生成と抽出（後藤克己） 有機試薬としての大環状化合物（庄野利之）</p>
11月30～12月1日	<p>工場見学会：富士写真フィルム(株)足利工場 懇親会と宿泊：グリーン天城 参加者：中部支部17名、関東支部23名</p>
12月7～8日	<p>第3回溶媒抽出討論会（静岡大学工学部） 特別講演：1件、研究発表：32件</p>
1月9日	<p>第10回 HPLC 研究談話会（名城大学薬学部） 特別講演：1件</p>
1月19日	<p>講演会（静岡薬科大学）</p>

	<p>講演：医学・薬学との接点における分析化学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学の立場から（菅野剛史） 2. 薬学の立場から（南原利夫） <p>1月25日 訪日学者講演会（三重大学工学部） 講演：E. Grushka</p> <p>1月29～30日 第8回技術セミナー（愛知県産業貿易館） 超臨界ガス抽出技術の現状と展望 講演：14件</p>
<p>1985年度 (昭60)</p>	<p>(支部長) 佐々木慎一 (副支部長) 鈴木真言、根津弘幸、山本善一 (常任幹事) 板谷芳京、宇井倬二、宇佐美四郎、内田哲男、上養義則、河口広司、後藤正志、酒井忠雄、佐々木与志美、佐藤 真、神野清勝、鈴木諄亮、中須賀徳行、野路雅英、三輪智夫、山田真吉</p> <p>3月14～16日 機器分析のための電子回路実習（名古屋大学工学部） 講師：吉村忠与志 実習、参加者13名</p> <p>4月23日 第11回 HPLC 研究談話会（愛知厚生年金会館） 特別講演：1件 パネル討論</p> <p>6月13日 第3回フローインジェクション分析講演会（愛知厚生年金会館） 特別講演：配位子置換反応速度の差を用いる分析法の設計（山田真吉） 連続固定化酵素カラムを用いるプリン代謝物の蛍光 FIA (大倉洋甫)</p> <p>講演：16件、機器展示会</p> <p>6月21日 講演会（金沢大学） 講演：分光分析の発展と環境化学（AASとICP）（山本勇麓） 超微量分析と海洋化学（金森 悟）</p> <p>8月27～28日 第12回 HPLC 研究談話会（名城大学薬学部） 研究発表：9件、実習：11件</p> <p>8月29～30日 第4回分析化学夏期セミナー（地方職員共済組合浜名荘） 主題：分析化学最近の話題から 話題提供講演：イオン会合の特異性を利用した吸光分析（酒井忠雄） 研究とルーチン分析との関連—研究をどのようにしてルーチン分析にとりいれるか（三井利幸） 水分析におけるストリッピングボルタンメトリー (三輪智夫) 水晶発振子の溶液中での挙動とその分析への応用 (野村俊明)</p> <p>ソフトボール大会、参加者57名</p>

10月15日	訪日学者講演会（名古屋大学アイソトープ総合センター） 講演：Separation and Preconcentration of Traces of Metals with Sorbents Based on Spherical Polyurethane Membrane Systems (Foams) (T. Braun)
11月27～29日	第16回中化連秋季大会（豊橋技術科学大学） 一般研究発表（分析関係）：27件 特別討論会〔逆相 LC の保持機構〕 特別講演：試料の保持と分離に対する固定相の構造の効果（田中信男） 逆相 LC の保持機構の熱力学的解析（山本文子） 研究発表：4件、パネル討論 特別討論会〔超高感度分析の諸問題〕 招待講演：はん用 FID による超高感度 GC（高山雄二） レーザー質量分析法に関して（古谷圭一） レーザー分光（英 貢） 高速液体クロマトグラフィー・分光蛍光法（発がん関連物質の 分析を中心として）（松下秀鶴） 研究発表：6件
12月6～7日	工場見学会：魚津埋没林、吉田工業(株)黒部工場 懇親会と宿泊：地方職員共済組合黒部荘 参加者：中部支部22名、関東支部15名
12月12日	講演会（名古屋大学理学部） 講演：振動する電気化学システムへの分析化学的アプローチ（根津弘幸） Biomineralization…貝殻結晶の生成と変質（北野 康）
1月10日	第13回 HPLC 研究談話会（名城大学薬学部） 講演：2件、研究発表：11件
2月3日	訪日学者講演会（信州大学理学部） 講演：Chemical Art in Ancient India (R. C. Kapoor)
2月12日	講演会（豊橋技術科学大学） 講演：主として原子吸光分析について（保田和雄） EPMA の過去・現在・未来（紀本静雄）
1986年度 (昭61)	(支部長) 山本善一 (副支部長) 伊豆津公佑、河口広司、和田弘子 (常任幹事) 板谷芳京、宇井倬二、宇佐美四郎、内田哲男、上糞義則、後藤正志、酒井忠雄、 佐々木与志美、佐藤 真、柴田久夫、鈴木諄亮、西山敦子、野村俊明、古川路明、三輪智 夫、森 定雄 3月13～15日 パソコンによる化学計測実習（豊橋技術科学大学） 講師：吉村忠与志、加藤正直 4月25日 第14回 HPLC 研究談話会、第3回液体クロマトグラフィー小討論会 (愛知厚生年金会館)

	研究発表：19件
5月11～14日	第7回キャピラリークロマトグラフィー国際シンポジウム (岐阜グランドホテル)
5月15～17日	研究発表：36件、ポスター発表：86件、展示会 第53回有機微量分析研究懇談会、第9回計測自動制御学会 質量・力計測部会合同シンポジウム(伊東市観光会館)
5月26日	訪日学者講演会(三重大学工学部) 講演：Luminescent and Chromatographic Methods for Chemical Analysis (S. Y. Su)
6月26～27日	第3回イオンクロマトグラフィー討論会(金沢大学医学部)
7月1日	講演会(福井大学教育学部) 講演：トレースアナリシスに於ける前濃縮(寺田喜久雄) 高分解能熱分解ガスクロマトグラフィーによる高分子のキャラクタ リゼーション(柘植 新)
7月4日	講演会(名古屋工業大学) 講演：非水溶液における電気分析化学の現状(伊豆津公佑) イオン交換による希元素の濃縮(黒田六郎)
7月25～26日	第1回化学パソコン懇談会(京都工芸繊維大学) 講演：34件、デモンストレーション
8月26～27日	第15回 HPLC 研究談話会(名古屋大学工学部) 実習：12テーマ
8月29～30日	第5回夏期セミナー(石川県辰口町総合福祉会館、まつさき旅館) 話題提供講演：L-アミノ酸型キレート樹脂による微量ウランの捕集と分 離(上田一正) カルボン酸による金属の抽出における抽出種の多量化と溶 媒効果について(山田碩道) 天然水中の極微量金属元素の存在状態別分離(平出正孝) アニオンキャリアー型イオン選択性電極(小泉貞之) イオン選択電極によるフッ化物イオンの定量-アルミニウ ムイオンのマスクング(湯地昭夫) 原子吸光検出法を用いた高温ガスクロマトグラフィー (太田清久)
9月3日	新製品紹介講演：4件 懇親会、ソフトボール大会 訪日学者講演会(豊橋技術科学大学) 講演：Laser Desorption Fourier Transform Mass Spectrometer (C. L. Wilkins)
11月5～9日	第3回日ソ分析化学シンポジウム(愛知県産業貿易館) 講演：21件(ソ連10件、日本11件)、ポスター発表17件
11月21～22日	工場見学会(東芝医療機器事業部那須工場)

	<p>参加者：25名</p> <p>12月11日 講演会、第29回有機試薬研究懇談会（岐阜大学） 講演：コロイド滴定の話（桐栄恭二） ピロン環を含む蛍光分析用試薬（村田 旭）</p> <p>1月9日 第16回 HPLC 研究談話会（名城大学薬学部）</p>
1987年度 (昭62)	<p>(支部長) 伊豆津公佑 (副支部長) 後藤克己、河口広司、窪田種一 (庶務幹事) 田口 茂、野村俊明 (会計幹事) 北川邦行、酒井忠雄 (常任幹事) 石塚紀夫、柴田久夫、永長幸雄、成田九州男、西山敦子、野村 毅、 平田幸夫、古川路明、三輪智夫、三井利幸、森 定雄、山崎 満</p> <p>4月23日 第17回 HPLC 研究談話会（愛知厚生年金会館）</p> <p>6月4～5日 第48回討論会（鳥羽小涌園、実行委員長 石井大道） 主題〔新素材の分析化学〕 〔クロマトグラフィーとその周辺技術の新展開〕 〔スペクトロメトリーとその周辺技術の新展開〕 主題講演：109件、一般講演：126件、製品講演：6件 参加者：522名</p> <p>6月26日 講演会（富山大学理学部） 講演：核融合炉燃料（トリチウム）の計量と分析—現状と問題点（渡辺国昭） ポルフィリンを用いる速度論的分析法（田中元治）</p> <p>7月23～25日 第3回パソコンのインターフェース回路実習（名古屋大学工学部） 参加者：14名</p> <p>8月20～21日 第18回 HPLC 研究談話会（名城大学薬学部） 実習</p> <p>8月28～29日 第6回夏期セミナー（文部省共済組合あづみ荘） 話題提供講演：環境保健学的野外調査における最近の機器分析手法の活用 経験例（二木安之、村山忍三） 溶媒抽出—逆相クロマトグラフィーによる微量金属の同時 定量（一ノ木進） 原子スペクトル分析法の歴史と最近の話題（北川邦行） 金属錯体の反応性の差を用いる分析（山田真吉） 製品紹介講演：3件 参加者：49名</p> <p>9月24～26日 第24回 X線分析討論会（豊橋駅前文化ホール）</p> <p>10月1～3日 第18回中化連秋季大会（信州大学工学部） 一般研究発表（分析化学、環境化学関係）：45件 特別討論会〔分析化学における分離と計測の新しい展開〕 招待講演：イオン選択性電極の分析化学及び溶液化学への応用（中川元吉）</p>

	<p>ガスクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィー及び超臨界流体クロマトグラフィーの一体化について（石井大道） 最近の表面・薄膜の評価技術（山内 洋） ファインセラミックスの湿式分解と迅速分析法（柴田正三）</p> <p>研究発表：14件 特別討論会〔電気化学並びに電気分析化学における界面の新しい諸問題〕 招待講演：光励起された半導体-溶液界面の新しい応用（藤島 昭） 研究発表：7件</p> <p>10月31日 講演会（名古屋工業大学） 講演：溶液内化学種の平衡と構造（I. Toth） 超臨界流体クロマトグラフィー（神野清勝）</p> <p>11月4～5日 第2回化学パソコンソフトウェア研究討論会（埼玉大学） 特別講演：2件、一般講演：25件</p> <p>11月12日 講演会（三重大学工学部） 講演：水中の微量元素の溶存状態分析（水池 敦） 分子設計のトータルシステム（佐々木慎一）</p> <p>11月27～28日 工場見学会：日本ガイシ(株)小牧工場 懇親会と宿泊：地方職員共済組合入鹿荘 参加者：39名（内中部支部27名）</p> <p>12月14日 訪日学者講演会（三重大学工学部） 講演：GPC の最近の進歩（D. Berek）</p> <p>1月8日 第19回 HPLC 研究談話会（愛知厚生年金会館）</p>
1988年度 (昭63)	<p>〔中部支部創立30周年〕</p> <p>(支部長) 後藤克己 (副支部長) 河口広司、野村俊明、森 定雄 (庶務幹事) 田口 茂、平出正孝 (会計幹事) 北川邦行、三井利幸 (常任幹事) 石塚紀夫、後藤正志、永長幸雄、成田九州男、根津弘幸、野路雅英、野村 毅、平田幸夫、舟橋重信、増沢敏行、山崎 満、山田碩道</p>

3 学会賞等受賞者一覧

学会賞

- 1963年 日本曹達(株)理化学研究所長 小田 伸彬
「発光分光分析法による工業分析化学の研究」
金沢大学教授 木羽 敏泰
「強りん酸を用いる分析法の研究」
- 1965年 名古屋大学教授 武内 次夫
「工業材料中の微量不純物の定量に関する研究」
- 1970年 名古屋大学教授 田中 元治
「溶液内反応の平衡論的並びに速度論的研究とその分析化学への応用」
- 1974年 名古屋大学教授 水池 敦
「極微量成分元素の分離濃縮に関する研究」
- 1978年 名古屋工業技術試験所課長 柴田 正三
「分析試薬としてのヘテロ環アゾ化合物の研究」
- 1979年 名古屋大学教授 石井 大道
「マイクロ高速液体クロマトグラフィーの研究」
名古屋工業大学教授 中川 元吉
「多座配位子置換反応の分析化学的研究」
- 1981年 名古屋市立大学教授 喜谷 喜徳
「錯体化学の薬品分析化学への応用」
- 1987年 信州大学教授 伊豆津公佑
「非水溶媒電気化学分析法に関する研究」

奨励賞

- 1971年 名古屋大学助手 柘植 新
「高分子分析の熱分解ガスクロマトグラフィーなどによる研究」
- 1982年 名古屋大学助手 平出 正孝
「共沈浮選法による極微量元素の分離濃縮」
- 1983年 名古屋大学助手 北川 邦行
「原子磁気旋光分光法と干渉補正法の研究」
- 1985年 豊橋技術科学大学講師 平田 幸夫
「キャピラリークロマトグラフィーに関する研究」
- 1987年 名古屋大学助手 竹内 豊英
「マイクロ高速液体クロマトグラフィーの高性能化に関する研究」

技術功績賞

- 1987年 浜松ホトニクス(株)技術部グループ長
本間 厚
「高性能光検出器及び光源ランプの開発」

論文賞

- 1988年 信州大学助教授 野村 俊明
「水晶重みセンサーによる水中の硫酸イオンの付着定量法
〔分析化学、36, 93 (1987)〕」

4 創立30周年記念誌に寄せて

4.1 20周年を憶う

静岡大学名誉教授 神原 富尚

昭和53年10月25日、名古屋市王山会館で、中部支部創立20周年記念講演会が催された。講演内容は次の通りであった。

1. 古代青銅器およびガラスの研究に対する質量分析の応用。鉛同位体比の測定

(名大名誉教授) 山崎一雄

2. LCの検出器、とくにMSについて

(豊橋技術科学大) 武内次夫

3. 分離法20年の進歩と将来への希望

(金沢大理) 木明敏泰

講演を御引き受け下さった先生方には、目指しておられる、たえざる御努力がしみわたった内容で、深く頭が下がる思いでした。「学は人なり」と言うことをしみじみ感じました。本20周年記念会に、実行委員長として、支部の発展に、いささかな力を、出ささせていただきました事を感謝致して居ります。

翌54年に武内先生には、英国で御他界されました。謹んで御冥福をお祈り致します。

ここに30周年をむかえるにあたり、ますますの御発展と各界に御活躍を御祈り致します。

4.2 試薬

伊勢久株式会社相談役 神戸 正雄

原稿のペンを走らせている車窓には、新緑が流れ、インターホンからは心地良いミュージックが流れ、テーブルにはホットコーヒーものっています。終戦直後の死にものぐるいの列車と比べると、想像も出来なかった事です。私が試薬と関係したのも、戦争が終って、伊勢久(株)現社長高木明氏から、使用不可の試薬を精製して分析用として使用出来る物を製造してもらいたいとの依頼で、試薬がすべての研究用の基礎で

あり、工業立国の一助と思えば、青春の血が燃える思いでした。精製手段の第一に再結晶法があり、溶媒にはまず水が必要であるが、蒸留水の製造装置も無く、幸いイオン交換のテクニックを知っていたので早速採水使用し、又販売にかかったのだが、ラベルに蒸留水と書く事も出来ず、精製水と記して商品としたが、精製水の意味を質問され、いちいち説明するのに閉口した。我が社が純水の販売第一号という事でしょう。水が如何に大切な事は、空気とともに其の恩恵を忘却しておる事かもしれません。試薬にはJIS規格があるが、水にJIS規格が無いのが不思議と思います。自分の経験上有機物の合成という段階に入り、入手可能な材料の中から一つ二つと仕事を進めたのですが、今まで上皿天秤の必要性等も水や空気と同じく気にも止めなかったのですが、合成一つ出来ず、化学は量を基にして出来上った学問である事を今さらの様に痛感した次第でした。

現在の天秤類を考えると、冒頭の乗物の事と同じ事を感じます。道具類もすべて手製で兵隊靴の鋏を集めて、充填材としてクレゾールの分溜をして、化学工業会に発表したり、 Condom を使用して空気酸化を防止、米軍投下の焼夷弾の残骸を使って、オートクレーブの代用にしたり数々の思出の一つです。

小学生の頃、我家の庭の小さな小屋で、化学実験をして遊んで以来、薬と半世期をすごし、今や現役を引退しましたが、再び実験室をつくり、化学を学んでみたい希望一パイです。30周年記念にあたり、試薬という事で、御世話になった諸先生がたの温かい交遊に紙上を借りて厚く御礼を申し上げます。

4.3 Computer Chemistry とともに20年

豊橋技術科学大学 佐々木慎一

武内次夫先生のご推輓を得て豊橋技術科学大学へ移ることのできたのは昭和54年4月である。爾来9年の余、同大学と日本分析化学会中部支部のお世話になってきた。

私の行う“Computer Chemistry”の第1報がAnalytical Chemistryに載ったのはいまから丁度20年前の1968年である。はじめての論文がAnalytical Chemistryに印刷されたということや、1972年に京都で行れた国際分析化学会議のポストコンgresシンポジウムをT. L. Isenhour や P. C. Jursら呼んで仙台で開く際の世話人を仰せつかったということがあって、その年、田中信行先生のご推薦で会員の末席に加えて頂いた次第である。そして1974年、多少の実績をお認め頂いたのか学会賞の栄に浴した。

仙台での10年にわたる蓄積をふまえて、研究環境のきわめて良好な豊橋の大学でComputer Chemistryは順調に育っていった。特にここ3、4年の進歩は飛躍的でさえある。現状の構造決定システムは、検体のスペクトルを2次元NMRの観察結果をも含めて入力すればかなり複雑な構造であっても正しい答を数個の候補の中の一つとして教えてくれる。 β -ヨノンやツヨブセンやセスキテルペンラクトンのように構造決定の容易でないテルペノイドも今や完全に射程距離に入ってしまった。さらに新規有用薬物の構造予測や目標構造に達するための出発物質や反応条件を教えてくれる合成設計も現実のものとなりつつある。化学の専門家からみて幼稚な答しか出せそうもなかったコンピュータが化学者に啓示を与えうるような道具に育ってきたのである。私は根は有機化学者である。しかしこのような道具を使って化学を解析的に論理化していくことで分析化学の一翼を担っているものと自負する。残りの年月を思うと日は暮れて道は益々遠いのであるが、一日一日を大切に私の分析化学を推しすすめていきたい。

4.4 分析化学の展開と悩み

信州大学工学部 根津 弘幸

今日の技術革新の特徴を科学と技術の接近・共鳴、原子・分子レベルの工学の展開、技術融合の進展の3つの視点からみる論議がある。分析化学も元素に着目して何が何%かと問う時代は判り易い学問であった。もともと分析とか総合という言葉は東洋でも西洋でも古くから使われ理解されてきたが、錬金術に始まる化学が技術から科学へと認知されるようになってきたのはやっと18世紀頃のことであった。その後20世紀になると化学種や測定法は年を追って次第に多種・多様化し、今日では新規物質の発見や合成は急速なテンポで行なわれてChemical Abstractsへの登録化学物質数は1986年末で820万物質と云われる。

理化学辞典の初版で分析化学は「化学分析の方法を探求する化学の一分科」とあるが、第4版では「化学分析に関する実験的ならびに理論的諸問題を探求することを目的とする学問分野の1つ。反応の進行やそれに伴う物質の変化など基礎化学の諸問題から、天然物や工場生産物、中間製品の同定、成分検査、環境調査、医薬農薬の製造・使用に関係する諸事項、さらに臨床検査に関する諸現象など、化学の応用分野に直結する諸問題まで幅広い領域が対象となる」と表現が変わり、さらに機器分析や表面分析も採録されている。

研究は別としても教育の場では分析化学の対象や方法の拡りに戸惑が生じ、一定の時間に限られた人が教える場合どう扱うか問題となってくる。McGraw-Hillの辞書(1974)にはThe branch of chemistry dealing with techniques which yield any type of information about chemical systemsとある。そろそろ分析化学を物質現象(広義)の物質、エネルギー、情報などの面から定性的、定量的、空間的、時間的に把握する教育方法はないものだろうか。科学技術の進展に伴って分析化学が直観的、感覚的理解を超えて進んでいくとき、分析化学の教育は再考を要する重要な問題となるであろう。

4.5 分析化学中部夏期セミナー所感

金沢大学薬学部 板谷 芳京

毎年、8月も終りに近づく頃、分析化学中部夏期セミナーが開催されます。このセミナーは、昨年までに6回を数えましたが、これ迄の講演数は38件、製品紹介講演は32件、参加者は延357名であります。

このセミナーの特色は、第1に講演のテーマが多領域であり、内容の全てが充実していることとあります。それぞれの講演において、基礎理論から始まり、先端技術までの行程について、解り易く、しかも詳細な説明がなされましたので、その領域外にいる初心者にとっても、内容を容易に理解することができました。この様に、高度の知識を短期間に与えて下さいました諸先生方に、敬意を表します。

第2の特色は、参加者全員が、懇親会の夜、同じ宿で一泊することとあります。酒宴の後に移動の必要がないとの安心感があればこそ、一夜にして多くの友を得、また、遠来の友人とは心おきなく語りあい、十分に意見の交換を行うことができるのであります。

第3に、ソフトボール大会があります。講演、討論の場では、時間の制約などで質疑、発言の機会のなかった人達も、このイベントに参加することにより、出席の意義を味わうことができるのであります。さらには、個人の健康にも役立つものであります。

以上の様に、毎年の開催関係者の努力により、「特に若手研究者の交流と親睦を通じて各自の視野の拡大と充実を図る……」の目的は着々と成果をあげています。そして、このセミナーは、まことに楽しく、意義ある行事であることが、次第に会員に知られるようになって来ました。今後共、中部支部の諸先生、及び業界の方々の益々のご理解とご支援により、このセミナーの継続発展を切に願うものであります。

4.6 30周年を迎えて

名古屋工業大学 内田 哲男

日本分析化学中部支部は1988年ようやく30周年を迎えることとなり大変喜ばしい限りです。創設期とそれに続く安定期とも言える30年間は、創設時の諸先生及び会員の方々の並々ならぬ御苦勞と御尽力に支えられて、無事に発展の一途をたどってこられたと考えられます。しかし、支部発足当時の方々も残念なことに次々と第一線から勇退されつつある現在、中部支部は初代の先輩方の偉業を継いで、第二世代による新なる発展の時期を迎えているとも思われます。

私も中部支部入会以来早くも18年となり、1986年度には山本善一支部長の下で庶務幹事を努めさせていただきました。学会等でお顔のみ存じ上げていた先生方と委員会で同席し、それまではちょっと近寄りがたく、なんとなく恐いと感じていた方も思いのほかやさしく、細かい所まで面倒をみていただきほっと安心したことが何度もありました。この言ってみれば家庭的な雰囲気は中部支部の大きな特徴ではないかと思えます。北陸、東海及び信州と地理的にはかなり離れている支部をまとめて運営して行く上で、この温かな雰囲気こそ30年にわたって培われてきた大事な財産であり、第二世代においても引き継がれていくべき大切なものであると思えます。

また中部支部の特異的な行事の一つである夏期セミナーも今年で7回となりましたが、日頃のいろいろな枠から放れて、気楽に参加できる自由なムードを毎回楽しんでおります。今後も勉強ばかりでない、余り肩の張らない行事を望んでおります。

最後に30周年を一つの区切りとして、中部支部が無理なく着実に発展することを希望しております。

4.7 分析化学中部夏期セミナーについて

岐阜大学工学部 山田 碩道

「分析化学に関連する研究者の交流・親睦を通じて、各自の視野の拡大と充実を図る。」ことを目的として、能登で始まった分析化学中部夏期セミナーも今年はまだ7回を迎える。

昭和56年8月、名古屋工業大学で第23回分析化学講習会が開催された時に、「企業主催の豪華な分析機器講習会も珍しくなくなった昨今、学会としては講習会について考え直す時ではないか」との名古屋工業大学の中川元吉先生（当時の支部長）の発案に、そこに居合わせた何人かの人が賛同し、その年の第2回役員総会で、翌年から講習会に代わり、夏期セミナーを試行的に開催することが承認された。そして、昭和57年8月26日能登セミナーとして、その年の支部長寺田喜久雄先生（金沢大学理学部）の挨拶で産声をあげた。7回の内4回を北陸地区でお世話頂いており、北陸地区の会員の皆様の夏期セミナーに対する熱心なご協力は、夏期セミナーのポテンシャルを維持する原動力の一つとなっている。

この会には新製品の紹介講演もあることから、業界からの参加者も多く、関連各社からの御協力を頂き、毎回盛会に運営出来ていることも忘れてはならない。最近、若い参加者（大学院生）も増えており、分析化学会の会員拡充にも役だっているのではないだろうか。

講演会ばかりでなく、懇親会の雰囲気も回を重ねるごとに和やかになり、広い分野の参加者が自由な雰囲気の中で伸び伸びと意見交換を行っていて、中部支部の潤滑油的役割を果たしているようにも感じられる。

このように中部支部の行事として定着した感じのする夏期セミナーであるが、マンネリ化することなく、ますます発展して行くためには、多くの会員が遠慮のない意見を出し合っていくことが不可欠であると思う。

4.8 能登から浜名湖へ

静岡大学工学部 山田 真吉

分析化学中部夏期セミナーは「若手研究者の交流と親睦を通じて各自の視野の拡大と充実を図る」という主旨のもとに昭和57年に能登で第1回が開催され、以後毎年8月下旬に中部支部の各地で開催されてきており、浜名湖での第4回セミナーを私どもで担当した。

本行事はそれまで毎年同時期に開催されてきた講習会に代るもので、主旨にもある様に若手研究者のための勉強会という色彩が濃い。主題講演では、同じ支部に属していながらも会場の関係などで年会などでの発表を聞く機会を逸してしまっている研究成果や、年会などでは最近のデータだけを限られた時間内で発表されるので全体像がつかみきれないでいる研究成果を筋道だっただけ解説していただけるので理解しやすく大変勉強になるとともに、講師も参加者も大部分が若手を自負しているせいか質疑応答（特に懇親会の翌日の講演での）にも遠慮がないのが特徴であろう。また、主題講演と関連した製品紹介講演では、同じ問題に対する業界側の視点が分かって興味深いことが多い。

浜名湖では能登で敷設された路線を踏襲したが、第3回以来恒例化したソフトボール大会をセミナーの公式行事として認知していただくために中部支部長杯を用意した。

参加者を確保するよう定員を超過した場合の対策に担当者が悩む現状が続いていることは、若手研究者がこの種の行事を望んでいて、実際に参加して得るところが多かったと感じているためではなからうか。新しく入会した会員にセミナーへの参加を呼びかけるとともに、第1回から皆出席している数少ない会員の一人として今後ともこのセミナーに参加してゆきたいと思っている。

4.9 中部支部の更なる発展へ

名古屋大学工学部 野水 勉

率直な意見を述べさせていただきます。4年前に名古屋大学に参りました時に、本学会に入会させていただきました。この間、中部支部との関わりは、個人的には薄かったように感じます。学会発表の場として、あるいは種々の科学技術情報源としては、本学会を十分に利用させていただいております。しかし、誠に厚かましいようですが敢えて言いますと、次世代を担う20代、30代前半の若手研究者に対する、積極的な企画や配慮をお願いしたいと思います。

最近の年会や討論会は、セレモニー的色彩が強く、中身のある討論が少なくなっているように感じます。懇親会は年々盛大で華やかになる反面、研究者の交流、気軽な議論がしにくく、上記世代の参加は少ないようです。

これまで、分析化学も本学会も飛躍的に発展してきましたが、国際的な役割が増すとともに、これまで以上に独創的あるいは先見性のある研

究が求められています。分析化学に関わる多くの若手研究者がこのことを最も痛切に感じ、様々に模索している状況のように思います。従って、幅広い研究者との交流を何よりも望んでいます。

昨年より、学会と並行して企画された若手研究者の発表会は、その意味で大いに歓迎すべきことですが、支部レベルでも定期的に集まれる企画があれば、もっと底辺にいる若手が集い、活性化するのではないのでしょうか。本来、若手自身が自発的に活動を行うべきですが、経済面を含め多くの制約条件に縛られています。支部として積極的なバックアップと寛大な配慮をいただければ、と思います。本支部主催のインターフェイス講習会（第1回に参加）は、その意味でも良い企画だと思います。

30周年を迎えて、単なるセレモニーに終わらず、将来の研究に役立つ財産を残していただきたく思います。

5 中部支部所属会員数の推移

年 度	会 員 区 分						
	名誉	永年	正	学生	維持	特別	公益
1958			514		14		
1959			533		14		
1960			550		16		
1961			549		18		
1962			588		19		
1963			588		19		
1964			570		21		
1965			562		23		
1966			532		22		
1967			563		14.5	26	17
1968			563		19.5	38	24
1969	1		574		23	49	33
1970	1		595		24	59	37
1971	1		608		24.5	72	40
1972	1		629		24.5	83	39
1973	1		639		23	86	44
1974	1		667		26	93	51
1975	1		713		25.5	94	54
1976	2		717		26.5	98	57
1977	1		741		26.5	102	64
1978	1		750		25	110	65
1979	1		753		25	110	65
1980	1		756		24	116	69
1981	1		767		23	121	70
1982	3		772		23.5	127	72
1983	3		755		23.5	129	76
1984	3	1	731	25	22	127	77
1985	3	1	735	40	20	123	75
1986	3	1	748	42	21.5	123	75
1987	4	2	759	52	21.5	122	77
1988	5	2	734	47	21.5	125	80
全国(1988)	51	17	6,587	344	319.5	867	594

各年4月の理事会報告の資料による。

名誉会員

1963. 3.30推薦	管原 健 (1982. 5. 9没)
〃	内藤多喜夫 (1976. 5.12没)
1971.10.14	岩崎 憲 (1971. 1.20没)
1975. 4.26	武内 次夫 (1979. 7. 3没)
1979. 4.24	木羽 敏泰
1981. 4. 3	桜場 周吉
〃	山崎 一雄
1988. 4.10	山本 勇麓

〔付記〕

伊豆津支部長から30周年記念事業の実行委員長という大任を仰せつかったのは1987年も終わりに近づいた頃であった。事業の基本方針を立て、翌年1月の役員総会でこれを承認していただくためには、もはや一刻も猶予はならなかった。早速、支部長を通じて主として名古屋地区の数人の先生方に実行委員になっていただくようお願いしたところ、皆快く引き受けてくださり、先ずは一安心であった。20周年のときの反省もあって、小人数の実行委員会を出発することにしたのである。とりえず準備会として第1回の会合を開いたのは12月の半ばであったが、記念講演会と懇親会の外、年表を主体とした記念誌を出版するという基本方針がここで早くも出来上がってしまった。役員総会でこれが承認されてからは、私の仕事は各実行委員にそれぞれ分担していただく役割を決めることだけであった。庶務（石塚）、会計（酒井）、会場（柘植）、年表（和田）、写真（舟橋）、原稿依頼（森）、とそれぞれ大変な役割を引き受けてくださり、すべて順調にことが進められた。ことに和田先生には膨大な30年史の年表を自らワープロに入力していただいた。ここに無事、記念誌を皆様にお届けできるのも、このような実行委員の先生方の献心的なご努力のお陰であり、厚くお礼申し上げたい。十分に注意したつもりではあるが、古い出来事などで年表には誤りが絶無であるとは申し上げられない。もしお気付きの場合には是非とも御指摘いただければ幸いである。

最後に、本誌のために写真をご提供下さった歴代支部長の先生方、またはご遺族の方、ならびに、無理に原稿の執筆をお願いしたにもかかわらず快く引き受けて下さった先生方に厚く御礼申し上げます。

1988年7月

（実行委員長 河口 広司）

